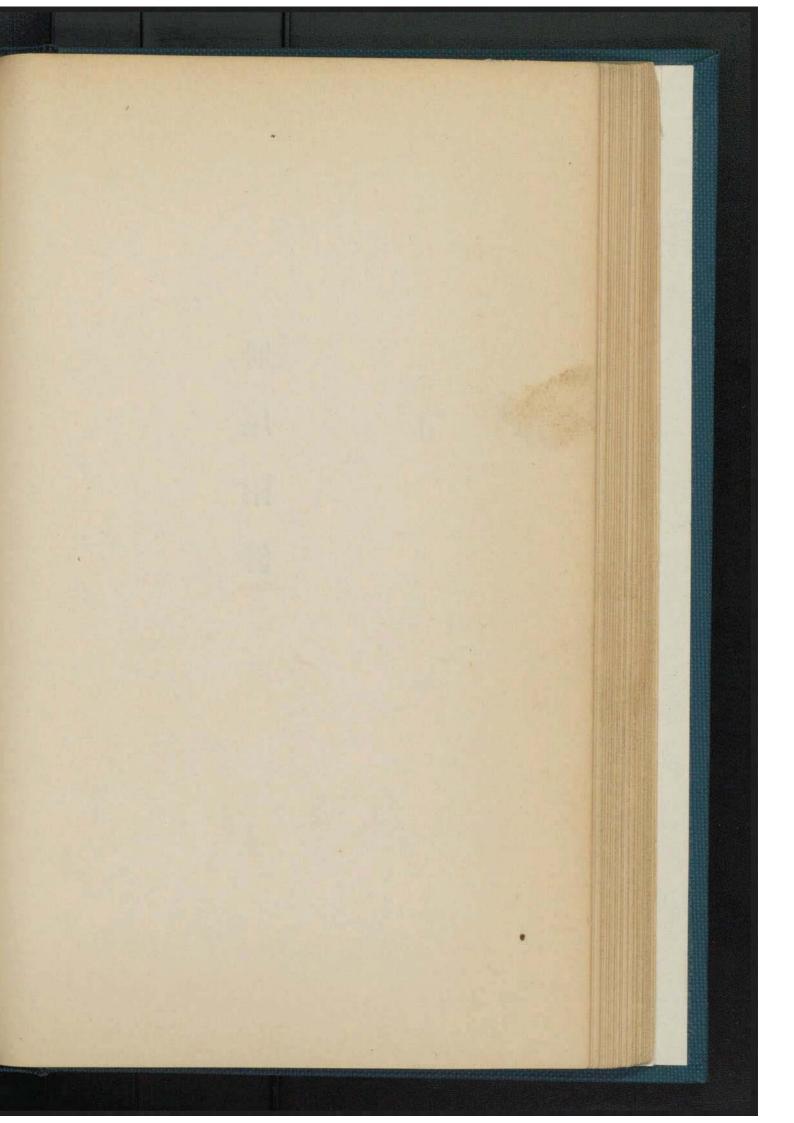
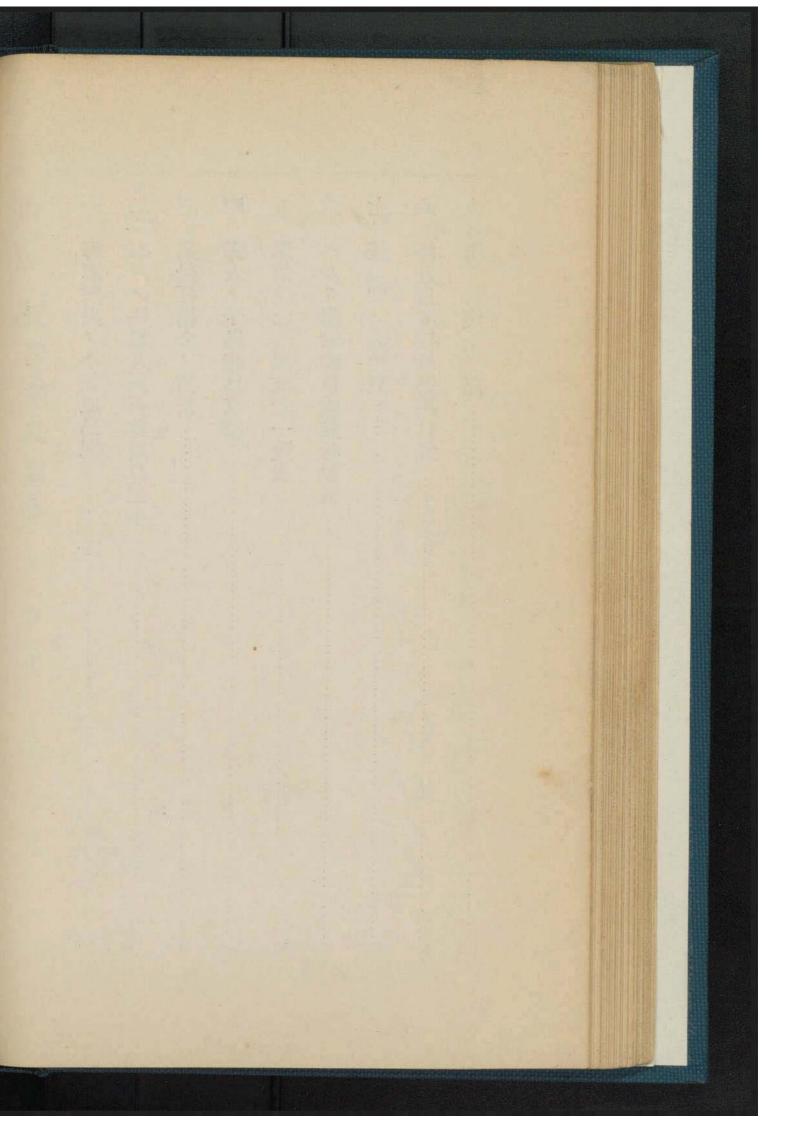
册尾附錄



九	八	七	六	Ħ.	四	三	=	
鐵	洋人	濠洲	ベル	露領	露人	異船	水戶	海軍
炮	日本探	ノ發	リ艦隊	及北米	ノ千島	打拂令	ノ快風	歴史ノ
記:	檢書籍	見:	訪日遠航	漂流者	諸島來	ノ消長	丸到石	小笠原
	目錄		航行動	一覽表	侵		狩川口	島記事
			表 ::				記事	
						:		•
: 159	: 151	137	133	129	121	115	113	103



### 海軍歴史ノ小笠原島記事

勝 海舟 リト 島ヲ 年) 帆 按 文禄二年 之二於テハ追々民家引移シ可被申別段見分ノ者ハ遣ハサレ間敷旨ヲモ命セラル享保五年年(千七百 中此 ラ 此島二 レ唐製ノ巨艦ヲ造リ乘組同年五月五日着船六月五日巡見相濟三出帆同 ス パノ海軍 関四 雖モ 距ル甚タ遠カラス隱然トシテ我カ南疆ノ藩籬タリ豊之ヲ度外 ルニ小笠原島ハ大洋中ニ基布シ蕞爾タル大倉ノ一粒ニ過スト雖モ遙ニ伊豆 島見 許サレ 月五 到ルヲ始トシ因テ命アリテ小笠原島ト名ク其後元禄中二至リ再ヒ渡航センコトヲ乞フ者 分ノ者被遣候趣承及貞賴末孫小笠原宮內 (千五百九十三年) 信濃深志領主小笠原民部少輔貞賴徳川家康公ノ旨ヲ受豆州下田 歴史ハ其ノ卷ノ十、 日 長崎住島谷市左衛門外三十八人記章資給ヲ賜リ出帆此船ハ長崎奉行牛込兹鎮ニ ス承應中紀州橋商船難風ニ遭ヒ此島 十一、十二ヲ小笠原島開拓ノ記ニ充ッ其ノ最終 ョリ渡海相願由 二至リ歸帆ノ上申立延寶三四年 視ス 緒分明二 ~ 5 月二十二日下田 ョリ 1 願之通被差許人家無 地方ニ對峙シ八丈諸 = 日 7 (千六百七十五 へ歸帆享保 ヨリ出 命

千八百二十年(文政三年)甲比丹ベーセー此島二至リ「アルゾビスポ」ノ名ヲ命ス英

ヤ沿岸及布哇等ョリ廣東地

方ニ往來ス

ル者日ニ蕃ク概此航路ニ由ラサル

抑當時我國

ノ船舶

テ測量及其他

々逡巡畏縮シ漸々其足跡ラ此島二絕手終二放棄シテ顧ルコトナキニ至

ノ技術ヲ講セサルカ故往々魚腹ノ患ヲ

ハ矮陋ニシテ風濤ノ險ヲ冒スニ足ラス又航海ノ業ハ一切之ヲ賤民伦父ノ手ニ委シ

発レサル

ハ理ノ當ニ然ル

ヘキナリ故ヲ以テ人

レリ而シテ外人ノカ

713

意二爰二止ル此ノ二人ノ者甲比丹ノ船發セシ後サンドヰツチニ赴キ米人二人デネマルカ人一人カメ

メハ三世ノ臣人男五人女十人ヲ移シ己レモ共ニ無人群島ニ

居住

セント計

七八年或ハ二十年在留便風ヲ得歸國申立ル旨以上舊記ニ見ユ 三之丞外四人難風二遭也正月四日漂着同年三月二十四日下總銚子浦へ歸帆其他八五六年十一二年十 門船長祭右衞門等八人至ル天保十支年(千八百三十九年)十一月十日奥州氣仙郡小友浦庄兵衞船 江米商人龜次郎船長儀三郎等九人至ル寬政元四年(千七百八十九年)六月薩州志布子浦商人三右衞 二十年)正月遠州荒井商人五兵衞船長左太夫水主八十八人至ル元文元辰年 (千七百八十五年)三月土佐赤浦商人儀七等七人至ル同七十年(千七百八十七年)十二月大阪北 等七人至ル同四元年(千七百三十九年)正月堀江町船持善八船頭富藏十人至ル天明五 (千七百三十六年) 堀 年

千八百二十五年(文政八年)英ノ甲比丹ヒユーチエ此島ニ至リ英ノ所領トス 栃內註 マルドツクニロク千八百二十七年英艦プロツソム艦長ビーチェ小笠原島ニ至リ英王ノ名

ニ依リ占領ヲ宣言ス

土人ハ之ヲ嫌ヒ此地ノ頭取ナル者其ノ政事ヲ行ヒ英ノ法ニ從フヲ好マス

二十七年五月琉球ヲ發シ六月九日小笠原群島ニ達シ父島ノ二見港ニ入リ泊シ島ヲ英領ト宣シ事由 the Command of Captain F. W. Beechey R. N. in the Years 1825, 26, 27, 28. 『依レハ同艦ハ千八百 栃內田夕 Narrative of a Voyage to the Pacific and Beering Strait performed in H. M. S. Blossom under 二ヶ年二及へルモノヲ見ル尚ホ此ノ島ハ千八百二十五年英船サップライニ依テ先ツ發見セラレタ ド僧正ノ名ニ由リポートロイドト名ク此ノ時英ノ捕鯨船ウイリャム號ョリ逃レタル英人二名在住 ヲ銅板ニ刻シテ樹上ニ釘着シ島ヲ英政府ノ內務大臣ノ名ニ由リピール島ト名ケ港ヲオクスフォー

ルヲ確メダリ

母島群島八千八百二十三年英ノ捕鯨船 Arzobispo ハ明カーボーニン島ニ當リ千八百十七年 M. Klaproth in his mémoire sur la Chine and 數年前 マニラニ於テ出版セラレタル Navigaçion Especulativa Y. Pratica ニ記載サレダル Yslas del (船長コツヒン氏) 入泊セシ事アリ

by M. Abel Remusat ノ著書ニボーニン島一名ムウーニンシマハ八十餘島ニ成リ內二大島アリ云々

ヲプネジマト名ク無住ナルヲ以テナリ ルニ於テ一島ニ難破ス arrack tree (areca?)多ク又 crabs (turtle?)多ク長サ四尺ョリ六尺ニ及フ島 有名ナルケンペルノ記事ニロク千六百七十五年日本船暴風ノ爲メ航路ヲ失シ八丈ノ東方三百マイ

小笠原群島ハ千八百二十三年ニ至リ M. Abel Remussat 氏ノ説ニ依リアロースミスノ圖ニ記載サ

w

ルコトトナレリ

翌千八百二十八年魯ノ甲比丹リュッケ此島二至り領地トセントノ手段ヲナセリ 栃內註 千八百二十八年露船長 Lutke 小笠原島ニ至リ占領ヲ宣ス

ドヰッチ島ノ男女數人ヲ伴ヒ到レリ千八百三十一年英ノ捕鯨船難破シ十二人此島ニ上リ內四人止 又西班牙人ノ至リシ時ハ「アルゾビスポ」ト名付ケタリ千八百三十年(文政十三年)米及歐人サン

栃內註 セルクユイント云者へール島徒民ノ詳記ヲ著ス此島ハサンドヰッチニ居ル英ノ領事官及直ニブリ 米人ナサニール、セーボレヲ長トシ歐米及サンドヰッチ人ノ一團千八百三十年永住ス

汉 U ニヤ 1 1 ノ政堂ョリ防護ス英ニテ此土ヲ守 サン 1 或 人云 y 千六百年 代 1 ルヘキ 华二 及七 兵 士ヲ送ルニ 日 本 1 圖 決 中 旣 七 21 = サ 此群島二 ンドヰ 家ヲ營ミ村落ヲ成 ツチノ交易半ヲ 割 テ セ W

千八百一 島 7 人 此 見 1-ス 舶 載 7 = w 論 セ 領ス 命 ナ 設 據 極 七 3 30 五十三年 以 IV 3 有 メテ公平至當トス 24 ~ 此 JV ス 日 ~ 7 島ヲ 牛 アリ然ルニ其民流移シテ再ヒ 2 本人ナリ N in 國 = 所 檢 (嘉永六年) 由 ハ疑 テ ŀ 他 查 ラ ナ 故 七 サラン ラ 1 毛 記 ナク日本ナルベ 3 サ = 英人早ク メ又書ヲ ヘシ 錄 IJ 4 1 3/ 四 是亦我 右 然 1 月十日 頗 w = 本 引 = 此 IV 今ヤ政府の 國 美 島ヲ 國 + 合衆國 學 V 13 1 ノ鋭意海軍ヲ 以前 發見 此地ヲ發見ス 海軍省ニ寄セテ汽船ノ碇泊 iv ŀ 千六 稱 水師 ノ如ク無人島 軍。 七 ス 艦。 百 3/ ^ 提督 七十 ヲ。 ŀ 3/ 振起セ 1-派。 云 フベ 五年 ル最早ケレバ當今爰ニ 雖 ~ 20 開 w 1 ・ノ發見 IJ 1-カラズ(以上彼理日本記事摘錄) サ 拓 モ 我國 ス ルへ 其 = IV 從 事 碇 21 カラ 決 事 3 何 リ遙 泊 所 3/ 3 以テ我 1 中 ソ サ テ 偶然ニ センコ 加 + w = 比 ノー 後 丹 住 ノコ カ藩 非 トヲ陳プ又云當然此 3 例 ス 1 w ラ = 證 鯔 者當然是ヲ支配 ス ナ 1 7 ŀ v w 此 固 ス 時 100 D w ウ 最早ク發 我 3 = 僅 P 足 二稍海 ボ w = 外 ツ

栃內 日 7 右 記 政府軍。 艦。 ヲ派・ シス 々二 關 シ海 軍歷史卷ノ十二遡リ要領ヲ摘錄 スルコ ŀ 左 ノ如 3

海軍歷史卷之十

小笠原島開拓之上

文久元辛年九月十九日於新部屋前溜安藤對馬守申渡

覺

水野筑後守

服部歸

越巨細實驗イタシ厚勘辨之上見込之趣可被申聞候事 伊豆國附島之御備向取調且小笠原島御開拓之御用被仰付候三付而者都合次第御軍艦へ乘組彼地へ罷

右ノ御軍艦ハ成臨丸ニシテ艦長即御軍艦頭取ハ小野友五郎ナリ

許可セラレ祝砲ノ件ハ見合セ候様トノ指令ヲ受ク 出發ニ先手水野服部連名ニテ抵抗者ニ對シ兵力ヲ用フル件ト着島ノ節祝砲ヲ行フ件トヲ上申シ前者

兩人八文久元年十二月三日品川二テ咸臨丸二乘込三四日品川出帆浦賀二入リ七日同發十九日夕父島二 又兩人連名ニテ運送船一隻差遣ヲ請ヒ千秋丸ヲ隨件セシムへキ許可ヲ得タリ

到着ス

**父島在留人此ノ時三十六人家數十九軒ニシテ内ニ三十二年前三乙島(サンドヰッチ)** 1 ル、 セ 1 术 レモアリ又英國人ホ ートン及ウエブノ兩人ト共二在留民取締ョ行フ水野筑後守ハ亞 ョリ渡 來 セ ルナ

威 書記官 ホ IV ŀ メンヨ リセーボレ宛ノ書翰ヲ携へ居リ之ヲ交付シ在住民ヲ賑 ス

二月父島 ノ調査ヲ終リ三月十日母島ニ赴ク母島ニモ英人在住ス復之ヲ賑

父島在住者訊問 二於テセ 1 水" レノ此島二渡リシハ三乙島ヨリ仕立テ此島ヲ目的ニ派遣セル船ニ英國

其ノ時ノ移住

人ニシテセー 三乙島コンシュ ボレハ初メ三乙島ョリ仕立 w チ t ルタン氏ト米國商人トムシムト同行セルコトカ知ラレ ノ交易船 ニテ島々ヲ遍訪シ最後 = 此 ノ島ニ落付 丰 モドル、

~ リー 來 島 七 シトキ米國々旗ヲ預リ所持スルコトナト知ラレタリ

セリ V 取調中各國船 ノ來航 ノ事ノ內彼ノ渡來初度ノ頃、捕鯨船ノ寄泊 ス w モノ年 々三 四 + 艘 アリシ

2 ŀ 7

トヲ申立又軍艦ハ千八百二十七年ノ英艦プロ

.7

ソムノ後十八年前英國軍

力

四

Ŧi.

年來三五

艘

=

滅

七

w

=

艦渡來シ其ノ乘員十四人此ノ島ニ逃レ住居シ又十二年前ニモニ橋ノ軍艦渡來セ

水野筑後守各村ノ無名ナリショ大村、 奥村、 洲崎村上 定 メ書面 二認 メセ 1 术 レニ交付ス

此 後群島總體ノ名ヲ定ムル 7 1 左 ノ如 シ(於母島)

總名小笠原ト相唱候右ハ三百年程已前名付置候儀ニ有之候其内ニセー ボレ罷在候島ハ當島ヨリ廣ク候

當島近傍 間父島上名付當島八其次二付母島上唱へ候間左樣可心得候 二散布有之候五島ハ姉島妹島姪島平島向島ト致置候間左樣可心得候

則書付二致置候間可相渡候

**父島ノ内** 

ノ時小笠原島内

母島

洲崎村 袋澤村 奥村 大村

母島ノ内

山

姉島

姪島

平島

向島

沖村

同港

片港

北村

同港

南浦

西浦

乳房山

右ノ通書 付 致相渡一 應萬次郎 (中濱)ヲ以テ讀聞 ケル

矢田堀景藏ヲ御軍艦頭取トシテ朝陽丸派遣ニ 十二日浦賀着三月朔日同所出帆三日豆州田子ノ浦着同九日同所出帆十七日小笠原島入泊同月二十四日 此後千秋丸難風ヲ避ケテ田子ノ 浦ニ碇泊シタ 決シ同艦、二年二月二十日品川出帆 ル儘久シ ク出帆 ス ル能 ハス依テ蒸汽代船仕立テノ議起リ 神奈川二 寄泊 シ同二

出帆四月十一日江戶ニ歸着セリ

朝陽丸再度ノ小笠原島行ニハ伴鐵太郎艦長タリ六月二十六日父島二見港ニ至ル 然ルニ此後移民輸送 ノ命アリ同年六月再度同艦ヲ小笠原島ニ派遣ス

(二見港及扇ヶ浦ノ名此ノ行ニ於テ初テ見ユ)

水野筑後守及服部歸一二人ノ建白ニ依リ日本領土タル事ヲ宣スル碑ヲ扇ケ浦ニ建ツ(文句和文) 小笠原島港規則ヲ公布シ文久二年八月先ッ之ヲ添ヘテ米利堅公使ニ小笠原島開拓 スル便宜等ノ設備ヲ通告シ次テ阿蘭陀、 魯西亞、孛漏生、 葡萄牙、佛蘭西ノ外交 ノ處置ト共ニ 同島

官二及亦 セ

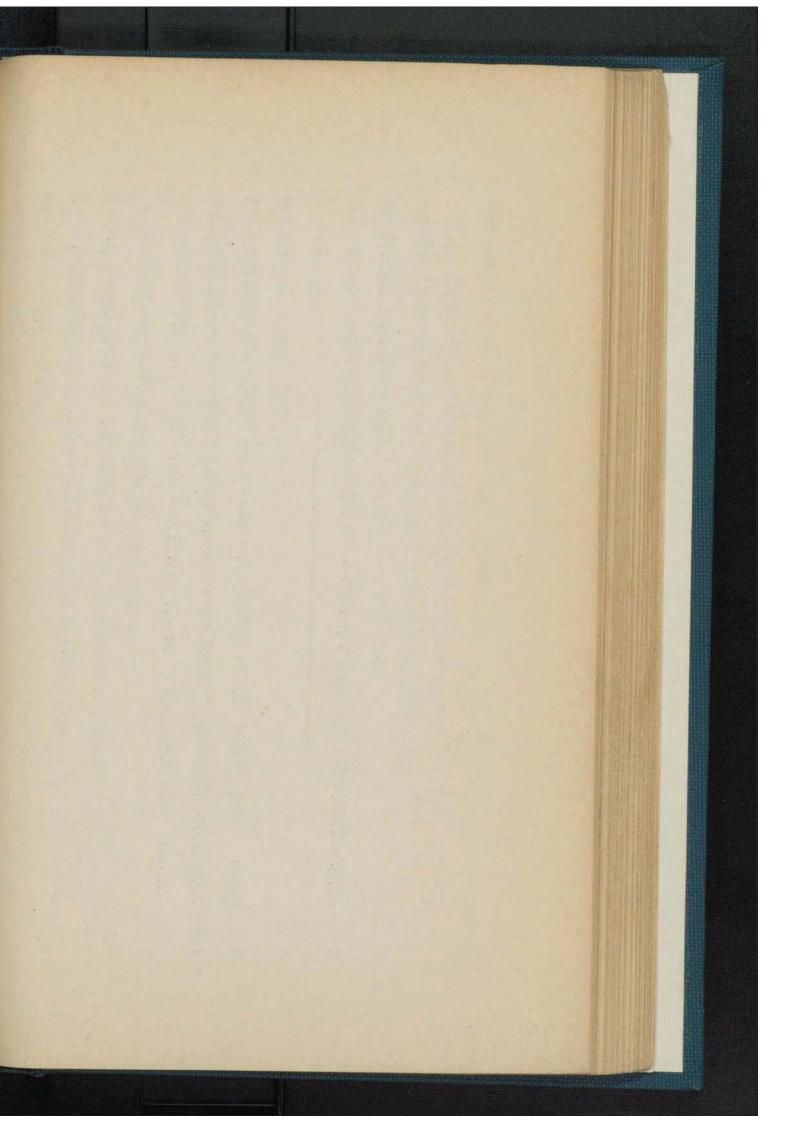
寄港

ル外國船

一對

明治 治十五年二至リ土着外國人皆歸化シテ日本人トナリ昭和二年夏 ノ世トナリテ日本人ノ小笠原島ニ移住スルモノ漸ク多ク明治十三年ニ島ハ東京府ノ所轄トナリ明

天皇陛下ノ行幸ヲ仰クニ至レリ



## 水戸ノ快風丸到石狩川口記事

(北島志卷一第六丁拔萃)

至此地者我界以酒食則益悅以鱖魚熊皮報之其人醉中舉棓相擊以爲戲卽槌擊,力也川甚廣深鱖魚甚衆殆 十歲始成至是自那珂港發船六月至石狩川夷人喜我船到爭來看之男女殆千餘人皆謂從前未嘗見如許大船 元祿元年春我義公遣崎山某駕快風船至蝦夷之石狩先是義公命作大船於南部地南部津輕二侯助役前後經 至妨舟楫以鱖魚百尾換米一斗二升留四十餘日至八月發船還則颶風大作船漂至北海蓋近韃靼地方也風息 抵松前以十二月得歸那珂港至公薨船壞不復修我州航海術遂廢云

大正六年十月ノ水交社記事第百九十四號二快風船涉海記事ト 題スル一齣アリ其中ヨリ拔萃スル =

快風丸建造費七千兩 舟大工大阪ョリ來ル

左ノ如

石狩川口へ航海ノ往復松前二客泊ス往路松前二テ案內人ヲ雇フ

乘員 崎山 市內御船役人、楫取二人、帆役二人、醫者一人、御目付足輕一人、押目付一人、イカリ役

一人、大工一人、舟大工、總人數六十七人

取 アンジン箱ト云者船屋形ノ上ニ矢倉ノ様ニシテ四尺四方有此ノ内ニ慈石(一尺四方) 役ニラ兩人シテ代ル~一慈石ヲ見詰

海路

ノ繪

圖 カジ

メテ居

御 船ノ内ニ傳馬ト云舟二艘入置陸 へ用候時へ此舟へ乘行常へ大舟ノ中ニ 置也大テンマ長サ九間 櫓

立小傳馬長サ六間櫓六丁立 ナリ

相續親 崎山市內十石三人扶持位舟ノ事勿論天文者ナリ後十石御加增二十 小與力恰好二見ユル也御舟ノ事總シテ金銀入目等ニ至ル迄不**残市**内支配也人品勝 右 ニ成サレ 享保十年 以後歿 レテ能キ人ナ ス子家督

帆 一役楫取役碇役何レモ長崎或ハ大阪者ノ由格式ハ御水主小頭 ノ格ナリ

異船打拂令ノ消長

寛永十六年四月五日鎖國令ヲ布ク(寛永鎖國令ト云フ)

慶安奉書ト稱スルモノアリロク

異船カ沖ニ在ル刻リハ聊爾ニ取掛 ルコト無用ニ候

寬政三年九月一日寬永打拂令ヲ修正シテ外舶ノ來ルモノニ ハ其來意ヲ質シ漂流船ニハ薪水食料ヲ給シ

テ立退カシム IV ノ融通法ヲ設ク

訓命二日 7

12

テ異國船漂着致候ハ、何レニ キ事ニ候以來異國船ヲ見掛ケ候ハ、早々手當ノ人數等ヲ差配リ先ッ見掛リハ事ガマシク無キ體 モ手當イタシ先ツ船具ハ取上ケ置キ長崎表へ差遣シ候儀夫々相伺ハ

異國 取計 貪着ナキ筋 = ノ者ハ宗門 E リ申ササ 相用ヒ 右 船 談 役或い見分ノ者共ヲ出シ樣子ヲ相試シ可申候若シ拒ミ候趣 7 候間 候モ勝手次第 計策ヲ以テナリトモ繋キ置キ船具等ヲモ取上ケ置 ノ所モ相分ラス候ニ付キ番人ノ外ハ見物等 ル様 彼船へ乘移り迅速ニ相働キ 三致 シ置 ノ事ニ候筆談等モ テ早 女相 伺 ハラ 相調ヒ 打拾 N ヘク候若シ異議 二七 又、見分等ラ 致シ召捕 7 禁セラ = ~ 及と候か、捕へ 候儀 キ人ヲハ上陸 王 w 拒 ^ モ尤モ -17 サル 候 候 ハ、船ヲ 趣 相成 1 Total Secondary 置 候 久 ニキ申サ サ 7 Æ 候勿論 人ヲ セ 成 w タケ穏ニ = 大筒火 打碎 附置 7 候

寛政四年十一月マタ命令シテロク

達シ 領等 可 有之候間右樣 品船漂流 候儀 へモ 書付 二千候間兼 銀テ手 等ヲ申 テ差出 ノ節 ノ取計方ニ付キ去亥年(寛政三年) ノ節 サル 々手配イタシ置候船數人數其外大筒 へク候尤モ不時ニ御役人御用序等 合 早速人數ヲ差出シ手配備 七 置 カル へク候前以テ規定致置候テ然ル ノ様子い見分ヲ受ケ候様ニ致サル 相達シ候趣 ノ節ニ相越シ ノ有無並 へき筋 -(即き前 手配 體 い相 ノ心得方隣 ノ様子 文 伺 訓令 11 7 w へク候 見分イタ 領 ~ 申 領 旨 內 合ノ趣等 2 中 相

寬政九年十二月寬政三年ノ令ヨ一層穩便化スル令ヨ下ス所謂寬政令是ナリ 異國船漂着 卒爾ナル取計 = 3 漂着候テモ海上へ向比候テハ石火矢ヲ打チ候ナラハシノ趣ニ相聞へ候 リ事 助 至り候節 力 ノ次第 ヲ好ミ手荒 ノ節ノ取計方、寛政三年委細 格別 ヲ此方ョリ仕出シ候儀ニ念入レラレ ハ先頃相達シ候通リニ候間人數等差越ノ儀ハ猶又心懸ヶ置 ノ儀先 ノ働ヲ仕出シ候テハ宜シカラス候先方ョリ重々不法ノ次第 ツ 24 成 ルヘキタケ計策ヲ以テナリトモ繋留メ置テ注進可有之候總テ異國船 = 相達シ置キ候趣 ヘク候 且又全ク海邊 い勿論 二候 ヘトモ若シ心得違ヒ候テ此方 = カル 所領 へい事故モ ヘク候 1-相決 無之面 3 無キニ 北: 4 ヲ得 1 右 テ モ 乘 近 w 事 領 3

日

文化三年一月二十六日諸藩 ニ命シ露船ノ上陸ヲ 禁シ懇諭 スルモ 命ヲ用 ヒサレ ハ之ヲ打排ハシム之ヲ文

化。 令。 云フ 日 7

文化令

先達 寄 差配り先の見分ノ者ヲ差出シ篤ト様子ヲ相糺シ彌々オロシャ船ニ相違ナク相聞へ候ハ、能 セ テオ 來リ 置キタル信牌モンヲ取上ケ歸帆 U 何レ V 中船長崎二渡來イタシ通商等ノ儀ヲ相願ヒ候へトモ取用ヒ難キ 1 浦方ニ 船ヲ繋キ 申問敷 1 13 モ サセ ノニモ無之候間異國船ト見受ケ候ハ、手當イタシ人數等 候 = 付 + 再渡 ハ致 ス間敷 候 ~ ŀ 筋ニ付き其旨申 毛 此 後萬 此々申諭 漂 諭シ先 流 一事

文政八年天文方高橋作左衞門ノ建議ヲ用ヒ二月十五日異國船打 IJ 成 3 サ 直 候節 セ 汉 ケ 帆 歸 穩 八諸事寬政三亥年異國船 1 帆 成 久 == ツ難 歸帆 サ 7 テハ ス 異議 + 1 番船ヲ附置 次第 久 = 3/ 候樣 及ヒ 二候 候 ハ、相應ニ = キ見物等ラモ相禁シ其段早々注進アル 可 1 ノ儀ニ付キ相達シ候趣 相 時 計 宜 候尤モ質 = 其品ヲ與 應シ 何ヒ = 難風 一、歸帆 = , 及ハス打拂と其旨 = = 遭 イタサ 准シ取 E 漂流 拂 セヘク 計 E イタシ候様子ニテ食物薪水等ニラク 7 ヒ可申 嚴命ス之ヲ文政攘 候且ツ へ夕候尤 7 申聞 ·候 何程相 毛 再應論 7 候 願候 右 乐。 體 3 テ 候 令。 ノ始末ニ至 E テモ 上陸

相

拒

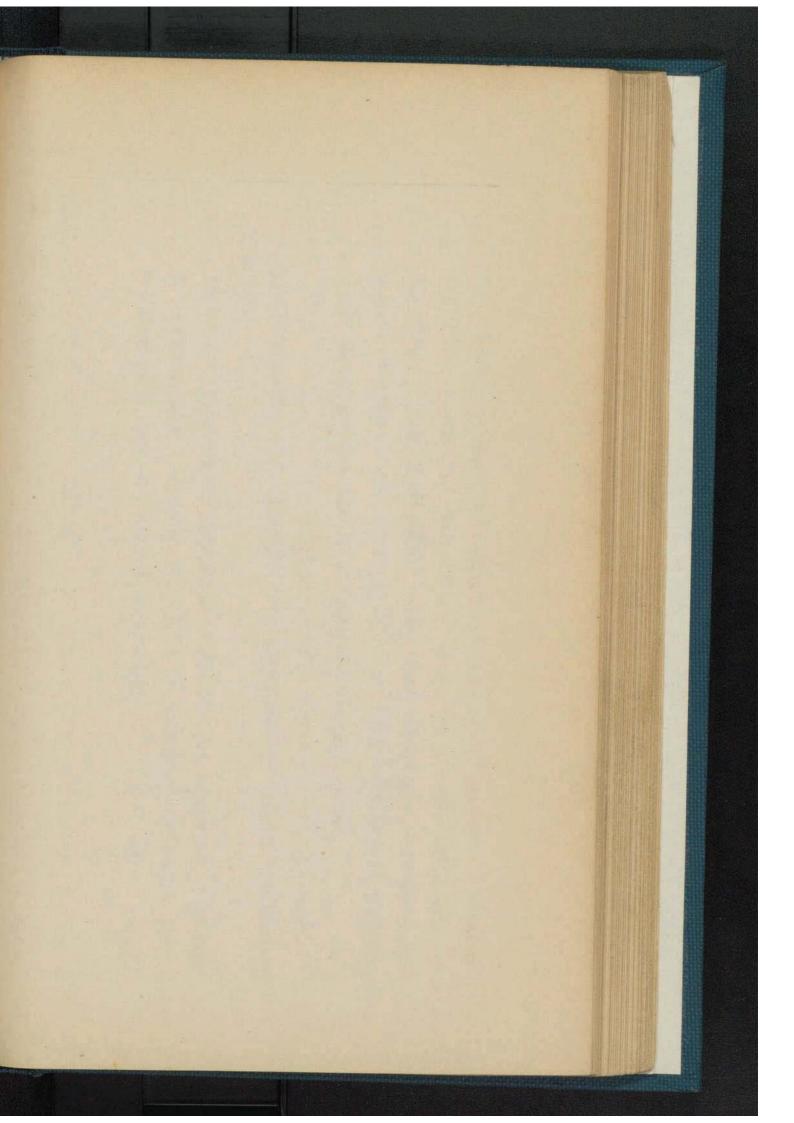
ハ致

要ニ日 等 ノ船ヲ 體 尤モ唐朝鮮琉 7 1 +" 萬 y ス 見損シ打誤リ候 = 限ラ 球ナトハ ス 南 蠻西 船形人物 洋 1 モ御察度ハ有之間敷候間二 ノ儀 モ相 21 御禁制 分ル へク候 13 IV. 邪 ~ |-敎 國 モ阿蘭陀船 念ナク打排ヒョ心掛ケ(以下省略) = 候 ~ い有無い 八見分 = 1 及ハスハ 3 E 相 成 圖、 IJ 兼 = , 申 打、 ス 排、 ト云フ其 e. ク右

中

然ル IV + 又打排 = 其後天保八年ニ至リ我漂民ヲ載セ E ノ厄ニ遭 シンシ メ空シク墺門ニ引返ヘシ我漂民ノ一人ヨリ愁訴ノ書狀幕府ニ傳ハリ深ク後 來リタ w 米船 E IJ ソン號ヲ浦賀ニテ打拂 E 其退テ 應 見島二人

水令ト云フ



四

## 露人ノ千島諸島來侵 北島志卷一 (原文漢文)

本國 撫 且 明和六年 人皆怨ム後夷衆ヲ拉へ國ニ歸ラント欲ス夷長逃ケ去ル乃チ衆ヲ縛シ鍋釜ヲ碎キ船ヲ發シテ去ル 明和二年露人延遲々 ニ去レ 3/ 日 ク露人ハ ニ得タリ今彼レノ縛シテ去リタル島人ヲ送リ還へス而シテ其ノ半數ヲホ 露人伊畔 ヤニ至り島中ノ事狀ヲ問フ歸ッテ得撫島ニ 將來島人ト交通セントス嫌猜ノ心ナキヲ要ス我ハ是ヨリ得無ニ ヘイハ (イハン、 > 亦 v u シヒ エン チ、 チン、 テカノフ、 ト訓ス) 至リ ト訓ス) 始 テラ 留 7 ルコト三歳延遅々性暴屢々夷 來リ云フ延遲 3 ヨワ、 シモシリ二島ニ至リ明 赴キ U 々暴ノ故ヲ以 王 臘 シリ島ニ 庶皮ヲ捕 テ既 ヘントテ得 留メアリト 人ヲ虐ケ夷 年擇 罪

是 抗 フ夷長得撫 ョリ先キ露 命也 ハ捕虜ト爲サント脅シ勢敵スヘカラス夷長等辛ウシテ逃ケ去リシニ露人尚モ之ヲ追 ニ至リ臘虎 ノ大船ワニノフニ入泊ス伊畔之ニ入リ越年シ明春小艇ニ駕シテ本國ニ歸レリ此 捕 シニ露人大衆來リテ夷長ニ 迫 リ獲 IV 所ノ臘 虎 ハ露國ニ 取ッ上 比銃 ノ夏エ ヘク若 ヲ發 1

安永元年蝦夷得撫

二獵

ス露人來ラス二年

又獵

ス露ノ巨艦

7

見

12

蝦夷戰

V

1-

欲

ス露人進マス夷

人思フ

JII

來ル

必ス前年ノ

怨ヲ報イン

ト欲スルナリ然レトモ我今兵力大敵ニ

當

ルニ

足ラスー

先

引揚

テ後圖

7

爲

ス

=

如

カ

ス

ト乃チ船ヲ發シテ擇捉ニ

歸ル此ノ年海上颶風多シ夷人思フ露人ノ得撫ニ碇泊

テ夷長二人ヲ 殺 ス -至 y

ヲ見 射獵 敵 延 = 於是擇捉 テ 臨ミ穴居スルヲ發見シ急襲シテ露ノ男女數十人ヲ擊殺ス露人散走爭フテ大船 遲 々以 臘 ス 何 + 輙 追 强 7 虎 而シテ露人又銃ヲ發シ之ヲ劫カシ盡ク夷人携行スル所ノ家 來數年 盛ナ 以 七人ヲ誘殺 チ ノ夷 殺セト テ將 捕 刀槍毒矢ヲ以テ之ニ逼リ斬獲無算露人ノ ルヲ十分ニ 人相議 へテ内 ノ不覺ニ夷 來 遂二得撫二至リ露人八人ヲ誘殺 ノ生計ヲ營マン ス更ニ 地 シテ日ク露人來リテ我島嶼ニ = 戒心シ 交易シ生業ト爲スモノ一朝露人ノ暴舉二遭ヒ之ヲ取リ上ケラル 和爾腦ニ在ル大衆ヲ殺シ盡サスンハ宿憤ヲ霽 人大二怒リ一大軍議ヲ開キ毒矢刀槍諸兵器ヲ作リ 兵器毒矢ヲ増 ヤト奮然トシテ羅處和 3 西浦 據リ ス露人多夕磨勘留島 ョッ山 脱スルヲ得タル 非道此ノ如 夷長ト衆ヲ率 7 越工 和 キニ 財重寶ヲ 爾 モノ僅ニ七人夷人大捷 并船 腦 = 至 「スヲ 在 = w 至リシニ露人 掠奪 IJ ۱ر = 得スト之ニ 1. 其ノ衆ニ令シ 駕シテ得 怨憤 ヲ引キ 聞 2 + 1 至 乃 海 リナ チ 撫 ۱ر 向 海 下 川 テ フ 至 " 7 如 シテ還 É = ス 踰 且. 夷 傍ヒ 當リ ク露 臘 事 7 テ島 我等 7 虎

w

モ

1

必

ス難

船

3/

久

)V

ナラン

1

明年復得撫

=

獵

セシニ

露

ノ巨

艦

果シテ破壞シ露人家屋ヲ海濱ニ

造リ留

へ鳥銃ヲ携ヘス

謂テロク我蝦夷ト怨隙

アル

=

アラ

ス

僧徒ヲ 侵奪ス 六年露 舍テ新ラ圖 IJ 譸 フ ス 力 皆 住 張 w 耶 至ラサルナシ得無 七 露 w 遣 IJ 蓋シ ノ巨 蘇 所 夷 處 和以 ノ諸 人弓槍ヲ構 極 改 法ナリ諸島及人名二改メ命スルニ露語ヲ以テス是ョリ露人其ノ徒ヲ遺 シ邪教ヲ弘ム一男必ス一婦ナリ拜 リ好ヲ結 和 北諸島 メテ我屬島 北 島ニハ皆酋長ヲ置キ狐皮ノ税ヲ定ム一男必ス一皮トス或ハ臘虎 爾 腦 -E 命 ヨリ皆 = 通商 至 ス ョリ以北ノ諸島皆改メテ名ヲ命シ露 ~ 逼り看ルニ露人出 リ留 w = 命 セ モ 一二ノ紀號ラ命シ得撫 リ生 ノ延享寛延 ントス乃チ夷人ニ ス IV ス露人乃チ ŧ 1 其 ノ間 迎 何 跪 此 ノ事ニ ノ歳 煙草及食物ヲ ノ地ニ - " 月ナ = 必ス額 係リ羅處和以南 至リ蟬腦オ 一徒リ住 in + 7 1 ノ隷屬トナス我國既二遠略ヲ以テ念ト為サ 贈リ以テ其ノ意ヲ 的 ス露人二島 胸 1-知 (センナッ ス w 點指 ノ改名 能 ノ蝦夷 ハス ス 兩 サト ハ明和年 唯夷 肩ニ 悅適 1 ノ仇殺ヲ聞 ノ皮ヲ輸 鐵器ヲ 人ノ言ヲ以テ之ヲ考 ハシ累々相踵 1 間 云フ ノ事 掛 スル モ ŀ 5 7 朝 則 為スヘキ 毛 ク数 夕禮 ノア チ 其 七 拜 y

露人ノ千島列島ヲ侵略スルャ占守阿賴度幌筵ト 數へ來リテ國後二至リ二十ヲ算 1

云

7

力

如

IV

造リ始 理又得撫三至 ルモノハ之ヲ許スヘシト然レトモ此ノ時羅處和ハ既ニ露 食ヲ 歸 安永七年露人迷的理(ヘントウセ、メテリヤ、ウコヘッ、ト訓ス)羅處人ヲ通譯トシ東蝦夷機答布 IJ 國スヘシ明年重ネテ來リ指揮ヲ受ケヨ迷的理乃チ歸國シ明春ニ至リ復來リテ土物ヲ獻シ互市ヲ允サ 與ヘテ之ヲ還ラシム松前又羅處和人ニ諭シテ日ク是後汝等來リテ交易セントセハ露人ト共 テ歸國 ヲ請フ松前日ク外國交易ハ蝦夷ノ能ク辨スル所ニ非ラス宜ク長崎ニ至リテ請フヘシト 三來リ上疏シテ通信交易ヲ請フ適マ松前ノ士新井田大八稅舖ニ在リ告ケテ曰ク今年ハ速ニ リ船ヲ スルコトヲ得タリ 和邇腦二 繋ク明年大地震アリ海嘯ヲ伴ヒ其船ヲ飄シテ山上ニ打揚ク ノ脅制 スル 所トナリ獨リ 氷ル = 迷的 小能 理 ハス 小 功 迷的 セ チ 糧 サ

之ヲ視レハ則チ船空フシテ人無シ唯一屍アリ祈殺セラレタル狀アリ藍屬木綿金器硝藥等ノ露貨堆積 子年少ニシテオアルヲ以テ命シテ一船帥ト為シ七十人ヲ率キ巨艦ニ駕 先是延享元年(千七百四十四年)陸奧南部ノ商船風ニ遭ヒ漂フラ劉羅斯國 ノ事ナリ)其ノ生存者勝左衞門利八等五人露人ノ撫恤ヲ受クルコト甚タ厚ク勝左衞門ニ偽官ヲ授ク其 船皆死ス何人ノ爲ス所タルヲ知ラス其船漂フテ得無ノ阿答吐葬 (アタットイ) ニ シ日本ニ向ハシム海路中殺サレ 一至リ (佐井 至ル 適マ ノ竹内徳兵 蝦夷往

テ日 疑 蝦夷意怪其 ナ 7 ク國 受ケン 君 ナ E ノ臨 丰 = 1 何 ŀ 力 故 ム所必ス政道アリ故ニ 7 恐レ 故 ナリ安ン 汉 其 w ノ州ヨ 7 ツ日 知ラス當 焼キ 本 ノ統 以テ述ヲ滅ス後夷人遠島ニ到ル者アリ之ヲ露人ニ告ク露人大ニ 時 其 轄 夷中政未分嚴ナラス夷人乃其貨物ヲ奪ヒ又露人ヨリ後日 = ノ人民匪 屬 ス ŀ 法 云 ノ事ヲ肯テ為サス然ルニ今此 11 2 ヤ今進ンテ其 地 7 開 拓 セ ノ事 ハ是其 T N ノ島 其 ノ主 政 道

天 明 五 年 迷的 理 重ネ テ來リ山上 ノ大船ヲ引卸 サ Y 1 3/ 1% w E 克 ス

ナ

露人是

3

リ屢々忿言アリキト云

フ

天明 還 討 ヲ 逆 盡 近 七 踰 風 ス 歲夷 3/ へス佐藤 ム其 五年 高 I 宇 遭 狄赤 品 勘定奉行 兒婦 E ノ訓令中ニロク且ツ聞ク松前獻スル 軌 行 留 起 3/ 地 島 1 信 w 東部 理 稱 = 25 7 ヲ審ニ 西部ニ 至 松本秀持命ラ受ケ山 1 ス 數日 w リ還 厚岸機答婦二 者蝦 リ具 行ク明年高品軌起遂 松前 シ要領ヲ得府ニ歸リテ逐 夷 = ノ臣鄉導ヲ爲ス者渡海艱難ヲ言ヒ以テ之ヲ沮 = 來リ 加 模沙斯 行き海ヲ踰 商買 口 高品 シ往 加等 所ノ玉 一々其 佐藤行信皆川秀道青島軌起菴原宜方ヲ遺 ノ諸島嶼安永年間 = 工 越土呂府ニ至リ露人伊如欲 テ久奈志理 一上聞 ノ物産ヲ 錦鷲羽 スヘシ高品等乃チ蝦夷ニ至リ東西部ョ分 買フ恐クハ外國 ハ是異域出ス所遠ク = 至リ越土呂府宇兒婦諸島 3 IJ 露 = 蠶食侵淫 往 ムピムヲ得スシテ松前 7 來 蝦夷 3 ノ路アラン 七 工 ラ 3 日 v ハシ ヲ探ラン IJ 至 遂 等ヲ召見 蝦夷ヲ 宜 w 宇兒婦 加 1 7 フ 巡 力 ス 欲 iv 海 引

胡 寬光ョ遣ハシ北蝦夷ニ至リ商館ヲ建テ地方ヲ視察セ 及フノ狀ラ言上ス然レトモ此時松本秀持既 ~ v コンニ至リテ還 = 點ケラレ シム西ハ孤潭突 桑原盛員之二代リ事遂 (コタント 二襲五寬永三年松前高 ニ至リ東 志 禮杜

プッシ 寛政四年幕府最上常矩ヲ遣ハシ北蝦夷ニ至ラシ 至リテ還 w メ西 ハ嶇峻内 ヘクシ ユ 2 ナイ)ニ至リ東 騰物 ウ

ルヲ以テ略ス) 寬政四年竦苦滿 (ラックマン) 伊勢ノ白子ノ漂民幸太夫磯吉ヲ送リ根諸 (ネモロ)ニ死ル (諸書二群

근 w 寬政七年露人滑失力 Ŧ カ 久奈志理 コトヲ圖 ノア 有ト 爲シ任意漁獵シ放縱憚ルナシ然シテ滑失力性暴虐ニシテ人心服セス往々小舟ニ駕シテ逃レ去 越土呂府ノ蝦夷ト交易ス當初松前令ヲ下シテ之ヲ却ケス故ニ虜人偃然自得シ宇兒 ル船稍損傷シ用ニ堪へス滑失力乃チ其ノ徒三十三人ト留り居り網ヲ以 (ヘントウセ、ワシリ、コンネニチ)復字兒婦ニ來リ山上ノ大船ヲ引キ テ臘虎ヲ捕へ厚岸 ヲ視 卸 根

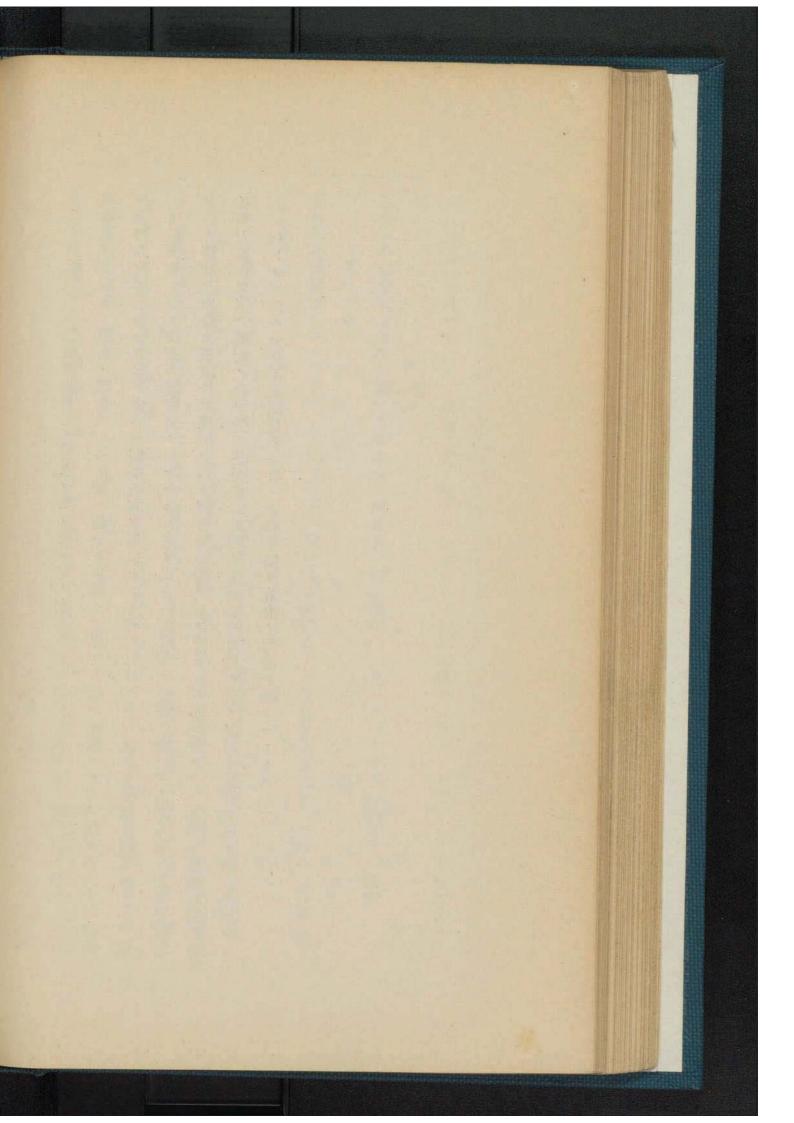
ヲ以テ大木ヲ斬伐ス松前高橋寬光加藤肩吾等ヲ遣ハシ往テ見セシム虜言フ是レ暗厄俚亞 八年秋八月廣艦 隻蝦夷 ノ阿部田 三至リ山二登ルモノ三十人布袋ヲ張リテ屋ト為シ 留 w 國 人貌刺東 九日斧斤

1

ル請フ薪

水ヲ賜

胤 幕府 北 夷 及羽太正養又同ク警衛ノ命ヲ受ク閣老戶田氏教參政立花種周 明年秋貌刺東 胤等松前ニ至リ政壽ハ東蝦夷ノシ 大河 地 シレト 露國 17 1 情 內政壽三 カ蝦夷 狀ヲ = -申告ス幕議松平忠明ラ 至ルマテト及諸島嶼ヲ收メ七年ヲ限 伯西兒ョリ 橋成方等ヲ遣 ノ船復繪鞆 ノ屬島ヲ蠶 角利勿爾尼亞ヲ經廣東ニ赴カント欲シ颶風ニ遭ヒ此ニ至 食ス 二至リ薪水ヲ請フ松前其ノ重ネテ來ル ハシ N 蝦夷地 モ松前 以テ蝦 ヤマ 方ヲ巡察セシム石川忠房江戶二在リテ夷地ヲ 21 藩 夷地警衞 至リ成方ハ 小二兵寡キヲ以テカ制 リ幕府 ノ事ヲ管セ 西蝦夷 ノ措置 其 ノ事ヲ總司ス東蝦夷 3/ ノ宗野ニ = 勿レト 從 ム未タ幾クナラス フ ス N コ 至 能 諭シ之ヲ ŀ ル三人冬ニ 21 1 サ ス w 7 却 2 聞 ケ環 地 一至リ 措置 キ寛 ノ南 テ忠房政壽成方 歸 政十年渡邊 ス ハ浦 w 府 事ヲ 河 具



附錄 第五 一覽表

考 書

記

事

Nordenskiold

漂着者17人中二人/外皆殺サル Sasa Gonsa ハ露都ニ送ラル

最上徳内ノ蝦夷章紙 環海異開

1200石船ニテ水夫16人ト共ニ漂流者皆露岡ニ死ス徳兵衞ノ墓ハ Ilkutsk =在り勝右衞門利入長松伊兵衞長助等夫々露國ノ役人 ニ用ヒラル

源民御覽/記

勢州白子村ノ彦兵衞持船神昌九ニテ乘組十七人ト共ニ島羽ヲ發 シ駿河沖ニテ暴風ニ逢フカタリナ女帝謁ヲ賜フ時ニ生存者五人

幸太夫磯吉小市新藏庄藏内前三人日本ニ送ラル 若宮丸八百石船石卷ヨリ江戸ニ至ラントシテ流サル津太夫外十 五人内六人露帝=謁ス津太夫保平左平太十郎歸國ヲ乞と許サレ 他二人ハ露國=留マラント乞フ此ノ時ノ通辯ハ新藏也

環海異聞

1812/冬ヲリコルドト共ニ勘察加ニ送リ翌十三年リコルドト共 = 國後=來リゴローニン釋放ノ事ヲ斡旋シ功ヲ奏ス而シテ嘉兵 衞自身モ放ダレテ日本ニ歸リ天年ヲ終フ時ニ文政10年59

Voyage of Morrison

太平洋ニテ難酸セシ船夫三人クインシャーロット鳥ニ漂到セシ モノ米國土人ノ為メニ捕ヘラレ幸ニコロンビャ河ロノ英國毛皮 會社員ニ贖ハル英國ヲ經テ澳門ニ送ラレ此處ニテ更ニヒリツビ ン諸島ニテ離船セシ我漂民四人ト會ス澳門ノー米國商館ハ新ニ 日本ト通商ヲ開クノ具ニ之ヲ利用セントシ1837 Morrison 號ヲ 艤シテ日本ニ送リ來ル Morrison 號ハ浦賀及鹿兒島ニテ打拂ハ レ空シク源民ヲ載セテ引揚ク

萬次郎歸朝/翌嘉永六年從公儀被召出新規御抱入御普請役格ト ナル高二十俵二人扶持

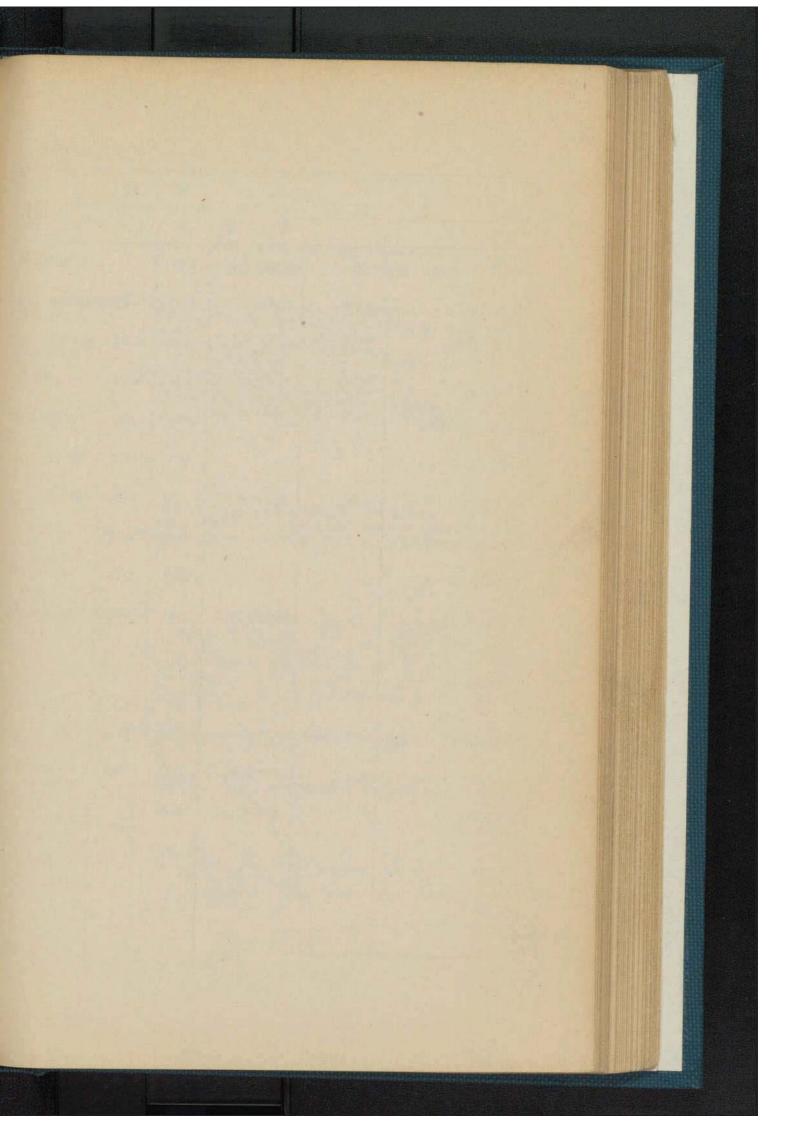
弘化二年米/捕鯨船 Mercator 日本北海ニテナ數人/漂民ヲ救 ヒンヲ送リテ浦賀ニ來ル幕府特例ヲ以テンヲ受取ル

續南蠻廣記 p. 223 = 日ク

- 1744/竹内徳兵衞以前ニ露領ニ日本人ノ漂着セルモノ三回アリ 第一囘ハ元祿ノ末年
- , 第二回八寶永年中 第三回八享保中

三囘トモ日本ノ記錄ニ缺ケテ居ル

	Hr FF	漂	着	歸	朝
人 名	住所	何 處	年	年	何 便
Sasa 及 Gonsa	薩摩	勘察加東岸	1729		歸朝者無シ
竹內德兵衞	佐井港	勘察加	1744		皆露國=終ル
幸太夫(神昌丸)	勢州龜山領 南若松村	アリウシヤン 群島中 アミシッカ	1782	1792	Adam Luxmann
津太夫 (若宮丸)	寒風澤	アリウシャン群島中	1793	1804	Resanoff
繼右衞門 (慶祥丸)		オンテレーツケ	1804	1806	千島列島ヲ經
五郎次 (擇捉番人)			1807	1812	Ricord
高田屋嘉兵衞	高田屋嘉兵衞 兵庫 喜三右衞門(永壽丸)		1812	1813	Ricord
喜三右衞門(永壽丸)			1813	1816	
· 長右衞門(督乘丸)			1815	1816	
壽三郎		米國西岸	1831	1837	Morrison
			1		
中濱萬灰郎	土佐ノ漁師	米國	1841	1852	米船
某		日本北海	1845	1845	米ノ捕鯨船 Mercator
紀州長助	3 3 4	米図	1850		
			MA		



# ◇ペルリ艦隊訪日遠洋航海行動表(有終十五年十月號)

本表はペルリ提督東洋視察報告書第一卷を摘譯し、之を表式に作爲せしものなり。(一五、八、二)

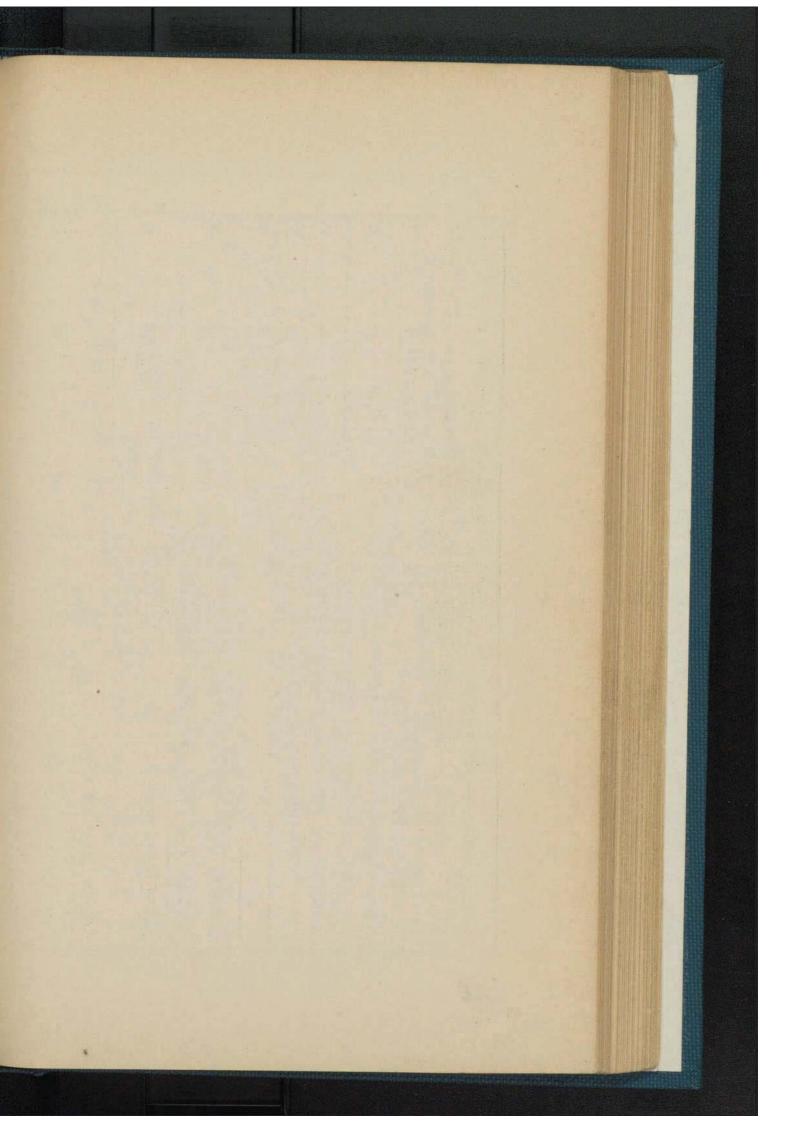
陸軍步兵大佐 竹 內 東 一 郎

族艦ミシシッピー號に座乘一八五二年十一月二十四日ノーフオーク軍港(チェサクピーク灣内)發

		7			-		-
香	新	セ	モーー	ケ 1	セン	マデ	經
	嘉	1	リシャ	プタ	ントヘレナ	イラ	過
442	tit	p	ス(佛	ウ	ナ(英)	(葡領	地
港	坡	~ —	-	_	1853		=We
					年		着年
四	17	三			7	=	月
七	<b>元</b>	0	八	pu	0	=	H
不							發
	=	=	1	=	-	=	年月
明	二九	五五	二八	11	-	五五	日
東在留米國民を保護す。當時長髮賊の為、長江以南動亂中なりしを以			ポーハタン及アレガニー號追及合除す。		ナポレオシの英魂を弔す。	碇泊中海軍卿へ意見具中をなす。	記
て、一隻宛交代して、廣							亦

万二五、四 五、二七 香港にてサラトが、アリマス及サツアライを今下に入らしむ。場所の 土搾 ぎ 先 方 で 飯 喰 ふ て 二 百 と 五 十 本 2 以上は帆走艦。	-										
海 五、四 五、一七 香港にてサラトが、アリマス みサップライを今下に入らしむ。	那					神	久	浦	琉	J.	澳
海 五、四 五、一七 香港にてサラトが、アリマス分 サラトに入らしむ。	-					奈	里一				
万二五、四 五、一七 香港にてサラトが、フリマス及サップライを令下に入らしむ。 陽 京永六年舊六 一四 本						Ш			10.		
五、四 五、一七 香港にてサラトが、プリマス及サップライを令下に入らしむ。場所の大工三年(大 一	MI							100	那		門金
五、四 五、一七 香港にてサラトが、アリマル・1 世級の 元 二 一 西 一 五 二 五 二 五 二 五 二 五 二 五 二 五 二 五 二 五 二 五	平月					77			***	海	荷
五、四 五、一七 香港にてサラトが、アリマス及サツアライを合下に入らしむ。福子江口にて大大 で 飯 覧 、							四三一五九永		19	1 -	不
五、一七 香港にてサラトが、ナッマス及サツアライを今下に入らしむ。 提続子江口にて給炭の為上海を警備後後近す。 一世 瀬泉保護の食上海を警備後後近す。 一世 瀬泉保護の食上海を警備後後近す。 一世 瀬泉保護を除き悉(坐別す。 一世 瀬泉保護を除き悉(坐別す。 一世 瀬泉 山の 一世 八、一世 瀬泉 山の 一世	七二	25		カ			前年年西年	-	六二	五	-
五、一七 香港にてサラトが、アリマス 世界 1 世界	Ti.	1	方き		ま		七,丁大一六	八	云	[74]	明
五、一七 香港にてサラトが、ブリマス及サツブライを令下に入らしむ。楊子江口にて給炭の為三日假泊、五月二十三日江口發。ブリマス 一											
一七 香港にてサラトか、アリマス及サツブライを令下に入らしむ。楊子江口にて給炭の為三日假泊、五月二十三日江口發。アリマステストの今遺に當り、族艦をサスケハンナ、サラトか、アリマスを発す。 が、ルリ 図書 「	八、					t			t		四
香港にてサラトガ、ブリマス及サツブライを令下に入らしむ。場場子江口にて給炭の為三日假泊、五月二十三日江口發。ブリマス那期の遺跡は六月九日發六月十四日二見港流、同十八日二見發流が、カリの率あたる艦隊は左の四隻なり。サラトガを居留民保護の為上は帆走艦。  「在一百と五十で夜もねられず。」 「本書をして工事を監督せしむ。。を急遣し、韮山の代官江川太郎左衛には、上流大路。。」 「本書をとして工事を監督せしむ。」 「本書をとして工事を監督せしむ。。」 「本書をとして工事を監督を持って、大郷川口及品川でをあり、「大郷川口及品川でをいった。」 「本書をとして、大郷川口及品川でをいった。」 「本書をいった。」 「本書をいった。」 「本書の一般で、大郷川口及品川で、「本書の一般で、「本書」		:	太		船	七			=	-	六
下がを居留民保護の為上海に派す。  「大かを居留民保護の為上海に派す。」  「大から、大が、アリマス及サップライを令下に入らしむ。場際には、月九日發に当り、施艦をサスケハンナ、大きの為後に当り、施艦をサスケハンナ、たきの前後浦賀港は勿論遠(進入し、六郷川口及品川でで、大きの前後浦賀港は勿論遠(進入し、六郷川口及品川で、大き店留民保護の為上海に派す。  「古と五十年」  「古と五十年」  「古と五十年」  「古と五十年」  「中、八日二見後二月十四日二見港着、同十八日二見後二月下で入月幕府品川に砲臺を急造し、進山の代官江川太郎左衛により。  「中、八日二見後二月下で入り、大郷川口及品川で、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに	7					を永量ル		ツ那ササペプ顕	日も那國楊那の類尺子	に香	通譯
を除き悉く坐洲す。 にて給炭の為ニ目假泊、五月二十三日江口養。アリマスを残す。 にて給炭の為ニ目假泊、五月二十三日江口養。アリマスに、 大月九日發六月十四日二見港高、同十八日二見發元の率 みたる艦隊は左の四隻なり。 ルカー 難 有 い	· 12*	:				し六すりて年。酸		ラスルラ出トケリイ發	翻分碇保江 歸遺泊護口	旗に	官ウ
民保護の第三日假泊、五月二十三日江口發。プリマス及サップライを令下に入らしむ。場方、カーの前後浦賀港は勿論遠く進入し、六郷川口及品川に砲臺を急造し、韮山の代官江川太郎左衞としむ。場上は、北京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京	を居の			和		事月 捧		ン率残當	ではサ低て	除ラ	イリ
護の為上海に派す。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世しむ。 一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一	民					監府の		リったのい	六ス上給 月ヶ海炭	きかが、	7 4
は大力で、及サツプライを令下に入らしむ。 場後後す。 大月十四日二見港高、同十八日二見後で、サスケハンナに變更す。 琉球警備艦としての四隻なり。 走ばの論遠く進入し、六郷川口及品川を整定を急造し、 韮山の代官江川太郎左衞	護		10			せ川後		スシ艦 艦	日ン警馬	坐プ	博士
海に派す。 海に派す。 海に派す。 海に派す。 五月二十三日江口發。 ブリマステトが二隻を小笠原島に分派し測量を急造し、 韮山の代官江川太郎左衞 を急造し、 韮山の代官江川太郎左衞 一を急造し、 韮山の代官江川太郎左衞	纸上			-		む砲 賀		上ツは サ	六 `後日	ナマ	を乗艦
プライを令下に入らしむ。 周二十三日江口發。プリマス 一見港高、同十八日二見發。 一見港高、同十八日二見發。 一方、 一方、 一方、 一方、 一方、 一方、 一方、 一方、	海に					をは		帆1のケ	十ラす泊	及	地とし
走り。 走り。 走り。 走り。 走り。 走り。 走り。 走り。						造論違		艦上隻ン	日が五	"	to
一						韭 進		走り に 髪	見隻二	ラ	る為、
官江川太郎 書館 とし 出版 とし おりゅう 後 で ス らしむ の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の								更	着小 三 、笠 日	を令	サラ
川   川   日分   の の の の の の の の の の の の の の の の の の						代官六		琉	同原 江 十島 口	下に	トガ
四 及   <u>艦</u> 見し リ む 後						川 - 川		警	八に發	5	號の
間川						郎及		<b>新</b>	見しり	せ	み後の
7 1 100 1 100 1								として	短週 マニ量 ス十せ 號	楊子	後發す。
英迄サミレ米江									三し米	3	

紐		香	那	下	函	F	横	那	香
Astr		1-1	Jage.		1				
	いル						濱		
	副り官は				B		DA		
ste	を定と	港	弱	田	館	田	神	靭	港
育	~1)	着	49	111	世日	111	(1)		16
1855	、 生	0						1854 年	
pq	港健	月日	t	六	Ŧi.	四	-;	-	八
	よ康りを	不明		七	一七	一八		回	t
歸五出	り英国し	-			U		汽帆	帆汽	1854
から 一端を が 一点を に 本の に ない に ない に ない に に に に に に に に に に に に に	郵			-1-	-10	-74-5	走際四	走走隊隊	年
に来	に車		t	六二	六、	五	एवं एवं	==	3
て年	乗卿じの		t	八	H	九	八六	t	pg
完ペ 了ル	,許印可		にポレマ	し琉下む球田	サ面ザ館		マ汽三領後	に右 到 消の 朗汽 着	るクペ艦にカ量プ 抗ラルの派ンをリ
せり	度を		合ハ °F	の一出	ン港		ド艦三の全	及外走走前世給艦艦米	識レリ怪しシ命マ
りは。旅	を得經、		レンア	海前	ト天		ア隻一田横	し炭隊隊海	之ド港き陸よっ。を れン出行戦ンバ琉
艦に	由艦、隊		むをン、	<b>金旗</b> 中鑑	號に		を川條在に	の構マサ病	な卿發動隊洪ン球
至り	翌の		てッツ		以ど		小沖約を於 笠に調許て	サドケ及	。訓 よ上表リ侃
其	一指八挥		波プラ		で防噴船		原進印す會島入後。見	プアン炭	を港早せ」、残
司	五を		稲イ州二	大ツ	火なき		にし、し、	ランナ庫イバ・発	傷総めし油ポし
令 長 党	五先年任		厦門を	121	及を朝		造江 日 す戸 米	100	2 2 2 2
官族	一般月長		をし	官核	關笑		の 和	はコンタ	27 时日 4
ショ	十ア		巡航、震	名。	港す。		(四) 四) (四) (四) (本) (**)	て、ビ船	ち」を一二原
るし	二ポ日ツ		居比	Ŀ	偵察		十空成	売キ は	マジ 保に隻鳥 譲滯をに
载	紐ト		留 島 米 を	陸せ	測量		日登。立し、	をシボ左	
一に其	育大歸佐		人を航	L	せし		1 下	けトハ七	小 訪此に設
重大	着に。委		保、	,	む。		H	東 `ンよ	日原よ の車への
7.5	0		護し港	灣			函	薄ザ 成	占英 再一る及
る任			つになって	を偵			館を	てブ	に國期を艦度
務を			香台		1		開き		對外 露廣隊の す相 佛東は測
				-					



濛洲 ヲ以テ兹ニ採入ス ノ發見ハ洋人ノ日本探檢ニ關係ナキカ 如 シト雖 トモ其ノ中二三日本探檢ニ言及シタル康モア

本篇八大正三年九月刊行水交社記事ニ出テタル濠洲みやげノ一部ナリ

# 濠洲ノ發見

傑輩 斯 ヲ立テヌ當時歐人ノ未知地探檢ノ主目的ハ徒手黃金ヲ拾 西班牙人、西ヲ指シテケー 7 テ海外發展二從ヒ各方面二活動シ in 間二當時貧弱ナリシ英國ニド ダナ中途ニシテ死シ部下ハ按針タル蘭人フエ 出 3 「スパニシ、 アメリカラ發見シテ發見熱起リワスコ、ダ、 アルマダ」撃滅セラレ英國ハ頭ヲ海上ニ擡ゲ來レリ然モ西班牙ハ猶餘威ヲ保 プホ 1 ンヲ廻リテ白露ノリマニ足溜リヲ作リ葡人ハ東ヲ指シテ瓜哇ニ根據 タル間 V 1 +, ニ勇敢ナル 亦 1 + ルナンデス、ド、 V 船長 ス、 メン グレンフ ン ガマ喜望峰ヲ超エテ印度ニ至ルノ航路開 ガ 1 ナ ス ハ智利ヲ發シテ太平洋ヲ探檢 工 IV = キロス二後と歸國セリド、 12 在リキ ギルバート、ラレー、等諸豪 + ス

之ヲ指揮 南海 ヤピタナ」トシド、キロス自ラ之ヲ指揮シニヲ「アルミランタ」トシルイ、バエズ、ド、 ニ大陸 シニョ「ザプラ」トナス皆六十順以下ノ小船ナリキ アリトノ自覺ヲ有シ西王二説キテ三船ヲ得 1603 リマヲ出發セリ三船ノ名ハーヲ「エ n

リド、 丰 IJ 西人リマヲ發ス 17 而 シテ此時船內糧食乏シク「エルキャピタナ」及「ザプラ」ノ船內反亂起リ二船ハ歸帆ニ決シド、 レーノ沃土ノ陸ニ達シ一日間沿岸ヲ航シ一良港ニ逢着シテ投錨 西 キロス、トーレスノ兩人ハリマラ發後數月間ヲ南海ヲ航シイ 7 方二 載セテ米國 シラ、 ルニ先チ蘭船「デュイフエン」ハ サガリヤ島ョリ西ニ折レド、ラ、ゼント、ヘルモサ島ヲ經東經百七十度邊 ノ西岸ニ歸投 セリ パンタムバタピヤラ發シニウーギニャ探檢 シ直 2 力1 二土人ト開戰 六 1 3/ I 2 島サ 1 途 ョリ ハレタ w モ島

ストラリス、デル、エスピリツ、 ロスノメキシコニ還ルキ發見セシ處ヲ發表シ最終發見地ヲ大陸ナリト稱シ名ク エスピリツ、 サンド島アリ群島中ノ最大島 サンドヲ以テス是ゾ今ノヘブライヅ群島ヲ大陸ナリト IV 誇稱 ニテ ラ、 E

1, ノ現名ヲ生ミ出セルモ キロスハ斯クシテ濠洲大陸二接着シタルニ非ルモ彼 ノニシテ彼い實ニ濠洲ノ名ノ發明者タルニ過ギズトス ノ名ケタルテラ、 才 Ì ストラリス、

此 ノ際「アルミランタ」號ノトーレス、統御ノオアリ規律ヲ維持シ相失シタル主將ド、 7 西ヲ 指 3 遂 = 帯ノ大ナル陸 地ヲ發見シ而シテ其 ノ間 三在 ル約百浬ノ空隙二突入セリ是ヲ今ノ + ロスヲ搜索

トーレス海峽トス

報告シ ナ y 7 h 這 1 y ガ E タル テ南下 スハ其後幾多ノ困難ヲ經テマニラニ上陸セリ以上トーレスノ事蹟 1792 モノノ寫ヲ英人二依リ發見セラレテ兹ニ 英人マ 3/ ス ガトー 力 1 ニラヲ砲撃シ ~ 2 レス海峡ヲ 久 リャ灣 通ラン ニ入リテ其ノ東岸ニ上陸 時 之ヲ占領 1 アセリッ ス w トーレスノ名ハ海峡ノ名二依り長へ二傳 ツアリシ頃蘭船 二及ビトー セリ是レ白人ノ濠陸ヲ踏 v スガ書ヲ西王ニ上リテ航海 「デュ ハ其後外シク湮滅 イヘン」 ミタル初ナラン 新 ギ シテ ルコ 事 ノ海岸

4 ナ IV w 土人アリ船員 ウ 1 w ウ × ( IV T. 以 蘭語鴿)ノ水夫 1 北 )V ノ多クヲ失ヘリト 今 (ヌルン)ト云フ還テ報告シテ日ク廣大ナル陸地ノ大部分沙漠ナルヲ發見セリ慓悍 3 1 7 半島ナリ後年マット、 ハ土人ニ襲ハレ 擊退セラレ多クヲ失ヘリ生存者其 フ リン 对 ース此ノ海岸ヲ測量 地 スルニ及ビケルウ = 命名 シテポイ

テトー

レストハ終ニ相見ズ

工 1 w ヲ改メテポイント、 デユイヘント名ケ船名ヲ存ス

紀間濠洲探檢ヲ續ケタル 西 人ノ濠陸探檢 ハ其後行 モ終ニ其門ヲ開ク ハレズ西人ハ遂ニ豪陸 = 及バズ時 = 觸 ルル能 -企 圖 11 ズシテ 七 ラ V 終レリ而シテ蘭人之二代リ約半世 13 N = y 25 寧口偶然二濠陸 ノ北及

西海岸ニ達セルモノアリ

和崩ヲ 發 印度 = 向 ~ 12 I. ンド ラト」 號ノ船 長 1º iv 7 ۱د 12 1. グ ナルモ 1 1616 十月シャ 7

來リテ上陸 3/ 地ヲダル 7 21 in トグ島ト名ケ鐵片ヲ樹上ニ打付 ケ 記 シテ 日

T. ~ 元千六百十六年十月二十日アムステルダムノ「エンドラト」 貿易商 ノ首席 12 y T 2 ス テ w 13° ムノ 对 IN か、 ハルトが船長タリ船 號此ノ地 八同月二十七日此 ニ着スルイクノギリス、ミ ルノ地ヲ 發

シバンタムニ向フ

片下樹上ニ刀痕アリ書 ノ鐡片其 崩船 シテ 日 「ゲールヰンク」號ノ船長蘭人フレーミングニ依り發見セラレタリ時 7 鐵

次席貿易商ジャン、スタイン一等士官ビル市ノピエタル、 ツークス紀元千六百十六年

彩多アルヲ見タリ内ニダークハルトが島ノモノモアリキ物館ニ西藻沿岸ニ古ク沈後セル騎船ヨリ引キ揚ゲタル遺物 18 此 髣髴トシテ蘭裝ノ故人ヲ眸裏ニ映出セザル能ハザルナリハウト 後 1801マデ此ノ鐵片復白人ニ讀 マレザリキ吾人ハダルク、ハルトグニ就テ其後聞ク所ナシ 然レドモー 度鐡片ノ樹上ニ釘着 マンノ險礁ルーイン 七 5 タル (北脚子) | 西藤バー ラ思へ

蘭人ノ名ヲ存 近 三上 シテ今日 陸 セシ メタ = 傳フ ルヲ以テ實ニ白人ガ藻陸ニ住居 而 シテ 1629 ハウトマン礁ニ 難破 シタ iv セン蘭船 始 トス 13 タビャー 號 時水夫及

濠洲 ワ ス 灣 ガ 十七七 海 = デ 人 大 附 y 陸 世 1 21 ノ南海岸 基クコ 勿 才 12 紀 フ、 論 w 存 初二 海 在ラ モ 1 峽 1 + 力 當リ 21 吹付ケラレ其地ヲ名クルニ當時船客タリシ首席旦那ヲ以テシ 紹介 ト稱 E 海 誰 名ケ 圖 ~ 和 1 E セ -3/ ラル 知 12 蘭 久 21 12 皆然 15 12 w ル 1 所ト 所ナ 中二 關領東印度 ヤ w ノ名 1 7 名ケラ リタ 同 ス 1627 然 八蘭領 起 スマ ルニ 繭船 間 原ナリトス今少シクタスマンノタ V 東印 此 = 外 7 ヤノ名ハ十七世紀ノ和蘭ノ大航海者アベル、 航 IJ 1 「グ 度總督 島 而 ス シテ ルデン、 w ハワ 船ガ屢々濠洲 ンデ 此 ノ名 ノワ ゼイバ 1 = 基 メン 2 デ 牛 ス リド」ハ 1 西 ラ メンナ 北岸 1 蘭 1. 本國 iv ス 1 船 = 名ハ マニヤ發見由 吹 呼 ヰアネンし 110 丰 ス 日 リ東航 V 我ガ大隅 1 流 丰 " ラ プテ ノ途 2 號 來ヲ ヤンス、タ F 海 1 峽 1 中偶然遠 船長 偶然 說 呼 洋 " Fo 其

此 1 事 Z. 力 關領 ク 及「ゼーハン」ノ二船ヲ以テシ 東印度 當時 ノ總督アントニー、 1642 ワンデ 八月十一 イメン 四 日ヲ以 ノ心ヲ動 テ 100 力 1% 3/ 12 E + ス ヲ發 7 ンニ シ南洋探檢 授ク W = 途

頗

JV.

好

事

7

世

間

吹

聽

セ

IJ

-

上

3

メ

及

赤 7 二十一月二十四日ト云フニ東北遙カニ陸地ヲ發見シ高山ヲ 13 發見シ之二入リテ深サ二十二尋底質泥 スマンハ素ョ ス IV y 二務 當時 ムル内一大荒天二襲ハレ今迄見タル陸ヲ失フト共二三書夜苦闘ノ後新 流 ノ航海家ナリ初 ヲ得テ投錨 メ先ヅ モーリシャスヲ指シ玆ニ シタル ヲストーム 背ニスル海岸ヲ望ミタルヲ以テ入 西風ヲ得テ東南間ニ向ヒ リテ泊

方ニ バートノ在ル灣、世界有數ノ良港ナリ此灣ストームベイト云フ緣因實ニ ノ名二依リテアントニ、 ラ去 ワンディメンスランドト名ヅケ和蘭ノ國旗ヲ樹ラテ十二月八日ヲ以テ東 右 如 3/ 久

ス セラルル迄二及ビタリ F. 7 殖民 此後久シク濠大陸ト接續シ居ルモノト考へラレキ實ニキャプテンクック時代ヲ 3 丽 シテバス及フリンダースト稱スル二人ノ大探檢家出デテバスニ依リバス海峡 丰

7 F 恰モド ス ヘタルニ等シタスマンハ此ノ後行ク人太平洋 セリト云フ蘭人ハタスマンノ偉業ヲ久シク發表セザリシト雖モ後年アムステルダムノ「タウン フリースガ我千島列島 此 ノ後 ニウー ジーランドラ發見シ之ヲ例ニ依リテスターテン島及コンバニヤ島 ノ得撫及擇捉島 ノ間ヲ航 ノ諸島ヲ發見 シテ前者 シッツ翌四 = スターテン後者ニコンパニヤノ 十三年六月無事

7 六 = 1 船 デ 1 毛 1 終 7 床 2 w 所ヲ = 25 此 知 後 屯 ザ ラ 1664 ザ 1 7 w = = ソ 13 = テタ 無惨ナ ス 7 スマ 2 V = 古ノ海客多ク非 船三隻人百十一人ヲ ノ航 路 顯 命 = 倒 興 V ~ 若 再 ビ南 11 未 路 海 振 7 探 25 檢 ズ 同 七 30 3 7 3 是 3/ ガ 17 ス 死 7

V

7

21

3/

久

IJ

1

聞

5

IV

ガ

今

猶

存

ス

N

-1-

否

テ 南 極 = 倒 V 12 n ス = 7 1 大 佐 ノ如 7 世 100 唱 -5 ル w -6 1 11 祭ナ y h 云 7 ~ = 衞 不 明

搜索ノ 此 7 ノ後フ 1 木 爲メ三 1 V 1 船ヲ率 (フレマント) " 2 ガ 中濠 1 探檢ヲ以 3 洲 ツ北 1 西岸ニ テ蘭人ハ 2> 1 派 1 造 ウ 濠洲探 J. セ 5 ス 1. v 檢 岬 久 ノ手ヲ = w 至 毛 1 = w 收 7 デ 3/ メタリフレ テ 1 搜索 海岸ヲ測 1 ーミング 目 量 的 物 3/ 攻 7 得 1 § 1696 7 ザ y 21 n 3/ 1-1 行 ガ 雖 E 南 船 U

v

y

英人 發見 荒漠 17 氏 21 7 遠洋航 ノ船長 濠 w シ且 タル陸 洲 3 北岸 y 2 海家ナ 外策 テ 13 " リシ 西濠ノ名物黑白鳥ヲ 初 地 -テ濠洲 ノ生 至 ナ y マシ リ 1688 丰 屢 活 = ノ苦 至 グ 4 = 木 西印度及ブラ 至 y --IJ 及 難 ツ 1 月 少 w = 堪 w 四 モ 携 之ヲ 號ノ船員 日今ノキン 21 工 へ歸 ズダ # ジ 西 ヤ 人所 Z JV. プテン、 邊 ŀ F. グス + 領 ナ -ハ敷輩 航 IJ 1 サウ 地 7 共 3/ 13 = ツ = 於 -7w カ 2 ŀ 經 --共 F. テ = ラ 歷 非 = 附 セ T == 近 1 = ズ y ノヒ 至 3 = = 11 IJ 7 13 1688 奪掠 ウ 島 3/ ツ ガ 丰 = 17 會 ヲ受ク プラジ 遁 IJ 1 4 + 河 V 漏 2, = 而 近ク IV 水 IV 3/ 海岸碇 ノ恐ア 夥 テ本 13 船ヲ 3/ Z F. 國 7 乘 泊 IV 到 t = 7 歸 上 底 中 ナ 陸岸 以 舊友スワン IJ ゲ w テ遂 13 な = リシ 及 乘 E 也。 遠 探 力

檢ノ事蹟ヲ發表シタリシガ大ニ世人ノ歡迎ヲ受ケ英王船及人ヲ給シテ再度ノ探檢ヲナスベキ旨ヲ 13 "

歸國 野 キ 1699 八月一日陸地ヲ得之ヲシャークスベート命名シ水ヲ取リニ 文 ノ外何等得 ムピエルノ斯クシテ「ロ ノ途中アッ 船員 同ト共ニロビンソンクルーソーノ實劇ヲ演ジタリ ル所ナカリショ以テチモルニ赴キテ船ヲ修繕シニウーギニャノ北方ヲ廻リタ セ 2 3 ョン沖二於テ船 エバック 號ヲ得五十人ヲ率ヰダウンヲ出帆セルハ 1699 一月十四日ナリ ノ浸水夥 シク遂ニ之ヲ乘拾テザ 海岸二沿比航 ルベカラザル場合二至リダムピ 行 3 1% w IJ モ 水 3 ガ兹 ナキ

ŀ セ 此 ノ後 傳 in カークナルモ 5 汉 2. E 7 12 21 ノジュアンフェルナンデス島二取 本國 ニ還リシガ後年商船 ノ船長タリシコト 遺 サ v 1% w アリテ其ノ船員ノ一人アレキ = 7 17 E ンソンクル ーソーノ本體ナリ サンダ 1

洲 ダ ヲ関却スルコト之ヲ外シウシテクックノ大發見ニ及ベリ F. T. ₹ 1703 ニ航海記事ヲ發表シ 丽 3 テニ ウ 1 \* 1 ラン 1, ノ無價値ヲ廣告セリ爲メニ世人ハ濠

Z,

然レドモ初テ東藻ノ好土二上陸シ濠洲二人ノ居住スルヲ發見シタルモノハクックナリ從前ノ發見ハク 1770 国 月キ + プテン、クック濠洲ヲ發見セリ否濠洲ノ發見ハクック以前ニアル コト前 說 7 所 如

E

ノナリ

ツクヲ兹ニ導キ致セルノ功ハアランモ世界文明ノ利益上ヨリ見レバ其ノ價值極 所ヲ建テ 1769 六月三日好天氣ノ下ニ金星經過ヲ觀測シテ主要任務ヲ遂ゲ 1 譲ラ 更二身ヲ海軍ノ水兵ニ下シ累進シテセント L 測 ズ ノ爲 而 シテ遠クワスコダガマ及マゼランノ比ニアラズクックハ一船夫ョリ起リデ商 メ南海 ノ思人タルノミ シ第一回ノ航海二上リケープホーンヲ廻リ南海二出デオタヒイテ島 二派遣 セラレ初テ三百二十順ノ「エンデイボル」ノ艦長トナリ 1768 七月三十日テ ナラズ其ノ三囘 U ノ航海ヲ以テシテ人類 1 Z 2 ス 河 1 測量ニ異才ヲ發揮シ ノ上 一二及ボ 猶訓令 セ メテルナキ ル功業 1769 ノ命ズル 金星ノ太陽經 船ノ船長ト 所二依

路 像立 7 成 1 西方 ック植物學ニ精シク及壞血病ノ原因ヲ研究シ之ガ豫防 リタルーアドミラリチー、 建テラレ + 所アル 指シテニ ヲ ダル 大將 説ク チー」ノ金牌ヲ受ケタルナド素ヨリ尋常海客ノ匹傷ニアラザリキ然ルニ彼ノ像ノ英國中 モノナキヲ遺憾トシ 1908 ノ頃ョリ往々ニシテ此ノ大偉人ニ對 毛 V スフオード其ノ除幕式二演説シタルヲ見ル而シテロンドン ノ漸ク世間 アーチ」ノ側二更二立派ナル銅像立ツベ ノ聲 トナリ昨(六年)年十一月彼ノ故郷 ノ方法 ヲ案出シテ之ヲ實行 ヨーク州 3/ 1 云フ ノマ スル ノモー w 謝恩 3 ŀ 功 IV ノ道 ノ東端ニ新 二初 依 テー銅 於 テ缺

ウル

ジーランドニ逢着シ遂ニ濠洲大陸ヲ發見セ

"

2

ハ伴ヒ來レ

ル植物學者バンクス地質學者フランダー天文學者グリンノ諸氏ト

共二具二諸般

調

年二月十四日所ハ布哇 = 7 向 " 1779 十月勘察加 ッ十 クハ IJ 日 一月一日九十 本ヲ世 1 界 3 非 -リ千島列島ヲ傳フテ南下シ十月二十六日陸中宮古 九里ノ南端大東岬 紹介シタル 命ノ最後 ロヲ遂ゲ 間 接 タル ノ恩人ナリ彼い第三回ノ航海二於 沖 マデ下リ再ビ北上シ銚子沖ョリ遠ク東ニ去リ 後彼 ノ業 キャプテン、 キングニ依り機承セラレ 沖 テサンド = 至リ 海岸 ヰッチ 而 島 テマ 度ヲ 航 (時八千 海ヲ續 測 力 定

1. 東岸ノ一角ヲ見之ニ名ヅクルニヒックス大尉ノ名ヲ以テスクックハ夫ョリ 休題ク ヤ 此 載 日 3 登 測 ックハ 1770 水 ン日本探檢 量 來朝 沖 12 -日 1 E 3/ 本 灣ヲ得る ノ人口四 タル ・ノ東岸 泊 モ ス 四 如辛皆航 キングノ測量ノ上ニ w スリテ 月先ヅ 事 1 百 正確 五十萬貿易額十三億五千萬圓 週間 泊 = 海者ガ ナル位置 ウ 七 以 リ是レ質二英國ラシテ濠洲二罪囚ヲ送リ之二殖 1 テ其 2 " ック第三回ノ航海中日本ヲ紹介セル部 1 ノ位置 ヲ世界ニ 一計畫ノ ランドニ至り夫レ 7 精測 基礎ヲ立 報告シダルヲ以テ 1776 3 始テ日本ノ厚サラ ノ富ヲ生 テ 3 1804 リ西 ゼル導火線ナリ 3 7 テ陸 n 1 地ヲ尋ネ四 知リ得タルヲ喜ビ又 1797 プ 七 ノラペ 北上シ 2 -ス 感謝 1 12 テ港灣 民セン (大正二年現 IV 1 月十七日 2 ス セ ザ ノ露使レサノフ ノ日 H ル 7 需 本海 w 始 ナ 素 四 テ濠洲 3/ 月二 閑 地

査ヲ遂ゲ五月六 日ヲ以テボタニー 灣 ラ去レルニ 拘ラズ スグ其 ノ手近ニ悉土尼 ノボ 1 チャ クソンアル

ヲ知ラザリシハ所謂緣ナケレバ紙壁隔テテ相見ザルモノカ

是 案 底 7 3 3 セラレ之ヲ用ヒテ沈沒ヲ問一髮ニ免 リク 殆ンド 修理 " シ多數ノ病者ヲ出シタルモ途ニ クハ海岸ニ沿ヒ北上シグレー I 2 デ 1 ボ ル 號ヲ沈メ 1 v 無事 ヨーク角ヲ廻リテ海峽ニ艦名ヲ永世ニ傳へバタビ ŀ F 3/ ~ 1 夕 1871 六月十一日ヲ以テ英國ニ歸着 w y P E 7 w y リジ 1 フノ問ヲ航シ具ニ 3 1 マット ノ用途 一艱難ヲ シ第 若年 甞 3 士 囘 官 ヤニ至リ船 ノ航 時 些 海 3 ヲ終 IJ 礁

發見談探檢談ハ我々船乗り二無限 此ノ後英國ハ北米合衆國 7 IJ ケバ ヒリツプラガバーナーニ任ジ之二十一隻ノ艦船ラ附與シ囚人ヲ護送 盡 7 w 7 知ラ ズ ノ獨立二依り罪人ノ送り先キヲ失ヒ濠洲ヲ罪囚ヲ以テ殖民 1. 雖 王濠洲 ノ興味ヲ與フルヲ以テ濠洲殖民後ノ分マデニ至リテハ讀 ガ本當二發見 七 ラレ タル此邊ニテ先が筆ヲ セ 擱 7 7 ス F w コト 限 決 y ナ 3/

ヒリップハ喜望峰ヲ經テ航海二百五十二日ニシテ無事ボタニー灣ニ着ス

y 水" " 1% ハ安坐無策 漫頭 ر \_\_\_ 帶ノ岩角砂濱乃至低濕ノ地草木茂ラズ良水乏シク且 ノ士ニ非ザリキ彼 ハ自ラ起チテ好 地 發見二向七三 艇ヲ仕立テテ北上シ忽チクッ ッ灣内狹 + = 過ギ タリ 此

太ト北州ト別ナ

ルコトヲ天下ニ證シ八月二十

九日

チ

y

术

スト

新知

1

間ヲ

拔ケテ太平洋ニ出

デタリ

浪

E 禽鳥唱 記 錄二 プ灣内ヲ巡 小 舟 清水アリ ノ泊地ト示サレタル灣内ニ入り仔細 視 河流アリ港内千船萬舶ヲ容 スル = 十二日 時 ノ殖民 卿 ノ名 w ルニ 二探檢セルニ弦ハ灣內奥深ク岸上樹 = 依 足レッ今ノ リ地ヲ 2 1. ポート、 ---1 ジ = リウト名ケ ヤツ 7 ソン是レ 木密生 即チ之二移 ナ 3 野花笑

峽ヲ 三日樺太 ラ 海 來 = E 二二艦アリ之ヲ注視スレバ佛國 IJ 經テ日 72 IJ n 沿海 佛艦 1 IJ ハ急ギ ス 沿 州一 本海 ハ引達ヒテスリテ泊シ此ノ年三月ボタニー灣ヲ去リテ幾星霜杏トシテ E 我宗谷海峽ニ其ノ名ヲ リッツ 佛國ヲ 達シ 南下シ八 ニスリ鬱陵島ヲ \* プ 13 韃靼海峽ヲ登リカストリー灣二人リ問宮海峽ノ通過ヲ ハ「サップライ」 出發シテ以來諸所ヲ探檢シテ今本國ニ向ヒ歸途ニアル -1 月十一日宗谷海峽 灣 == 歸 發見シ リ上 ノラ 留メタル名高 陸 折レテ能 號ニテ佛艦 ~ 隊ヲ引上ゲ十 U ヲ東ニ出 1 ス少 登 1 キ航海者ニシテ前 二赴キ之ヲ歡迎シテ後磨下ノ十一 將 デテオコック海 沖 ノ薬 一隻ノ艦 合二 中 來テ測 ルコ 船將 术 量 1 = ソー 陳二 ニスリ セ 术 2 タニー灣ヲ出デ ルーーアス 艦ヲ率ヰテ 1787 = 試三不可 兹二當時諸 ŀ モノ曾々ボ 前 -述 行 1 能 隻上 ~ 17 ナル 說 以 所 タニ ント ラ 共 紛 7 1 Ŧi. 所 知ラザ ヤタリシ棒 7 ニシ ス 1 ブーノ二艦 究メ八月 ブ如 月對 灣 島海 1

速ノ難

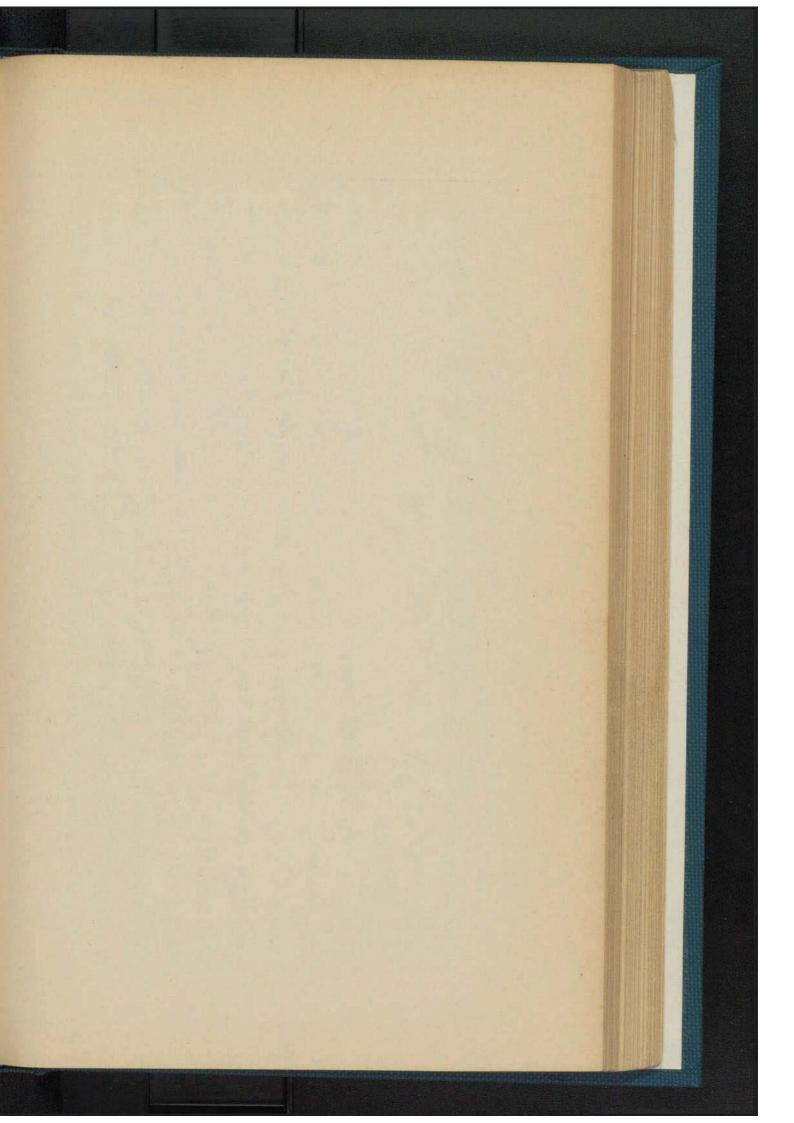
破

月二十日二此ノ海峽二臨三二十九日二至リ僅二通過シタルヲ見レバ當時航海 5 ~ D 1 ス ۱۱ 此 ノ後 ~ ŀ U パウ Tr ブ スキーニ 至 IJ V セ 7 プ氏ヲサ 1 ~ リャ經由 ノ苦心ョ 陸行 セ 想像 3/ x 報告書ヲ巴 ス ルニ足 12

セル海峡ラ洋名ブーツール海峡下云フハ彼ノ率井ル艦名二取レルモノニシテラペロースハ八

理二送り更二南下ボタニー灣二於テヒリップ二會セルモノナリ

巴 ラペロー 跡ヲ發見シ 社 ノ船長 理 ノ博物館ニ悲惨ナル記念品ヲ留 E° スノ航海記事ハ 1798 初テラペ 1 少 1 ロースノ最後ガ知ラレ 3 ロンナルモノサン 英譯出版セラレ 少、 又 7 1883 ロズ群島 タリ而 佛政府人习派シテ遺跡ヲ探ラシメ大砲錯等ヲ拾ヒ シテ此ノ大航海 ノ最南端ニ T N ノ終リヲ語ラズ 1826 ワ = = 17 島二 於テ難破船 東印度會 ノ遺



洋人日本探檢書籍目錄附錄第八

亚	验	書	名		出版年
1.	2.	Kaempfer's History of	Japan.		
			in 2 Vols.		•• 1728.
S.		Kaempfer's History of	Japan, Amste	erdam.	
			The Contract of the Contract o		1733.
4.	5.	De Charlevoix Japon.			
	200		in 2 Vols.		1736.
7.		Montanus Embassy to	Japan.		
					1670.
8.	9.	Thunberg's Travaels in	Europe Afr	ica and A	sia
		in 1770-76.			
			in 2 Vols.		1795.
21.	. 22.	23. 24. 25.			
		Burney's Voyage to Son	uth Sea.		
			in 5 Vols.		1803-1817.
26		Burney's Chronologic I	History of NE	E Voyage.	
					1819.
27		Memorials of the Empi	re of Japan i	n the 16	&
		17 centuries.	By Thon	nas Rund	all.
					1850.
28		The Voyage of Captain	John Saris	to Japan,	1613.
		By Sir	Earnest M.	Satow K	CMG.
					1900.
29	. 30.	Diary of Richard Cock	s Cape merch	ant in th	e
		English Factory in J.	apan, 1615-1	622.	
		By F	Edward Maur	ide Thom	pson.
			in 2 Vols.		1883.

否	验	書	名				出版年
31.	32.	33. 34.					
		A Voyage to the Pacific	c Ocean under	take	n by	the	
		Command of H. M.	by Captains	Cook	, Cle	rke d	Ł.
		Gore in H. M. ships	Resolution &	Disc	cover	y in	
		the years 1776-1780					
		in 3 Volumes, accomp	panied by 1 al	bum			
							1784.
		W. I. C. III. Contra	in Tamas Coo	l- El	pq		
		Vol. I & II by Captas					
		Vol. III by Captain J					
		Published by order	of the Lords	Com-			
		missioners of the	Admiralty.				
					••		1784.
35.	36.	The Voyage of La Pero	ouse.				
			in 2 Vols.	* *			1798.
37.		Broughton's Voyage.					
			in 1 Vol.				1804.
38.		Krusenstern's Voyage.					
			2 Vols. in I.				1813.
39.		Langsdorff's Voyages	& Travels.				
			2 Vols. in I.				1813.

### 露人ノ探檢

番	验	書 名 出版年	F
51.		Strahlenberg's Siberia.	
		1738	3.
52.		Russian Discovery & History of Kamtschatka.	
		1761	
53.		Sauer's Billing Expedition.	
		1802	2.
54.		Coxe's Russian Discoveries.	
		4th Edition 1803	3.
.55.		Staehlin's New Northern Archipelago.	
		: 1774	Ł.
56.		De Lesseps' Travel in Kamtschatka.	
		1790	).
57.	58.	Golownin's Narrative.	
		2 Vols. · · · · 1818	3.
59.	60.	Golownin's Japan & Japanese.	
		2 Vols. · · · · 1853	}.
61.		Gawrila Sarytchews' Voyage to NE Siberia.	
		1 Vol. · · · · 1809	).
62.	63.	Goncharoff's Fregate Pallada.	

## 十九世紀英人ノ探檢

番	號	書		名				出版年
71.		Hall's Voyage to Corea						2010
			1 Vol.	**		***		1818.
72.		M'Leods' Voyage of H.	M.S. "	Alcest				1010
							• •	1818.
73.	74.	H. M. S. "Samarang	"					4040
			2 Vols.					1848.
75.	76.	Oliphant's Lord Elgins	Missio	n to C	hina	and		
		Japan.	2 Vols					1859.
77.		Tronson's Voyage of "			•		100000	1859.
			1 Vol.		• •			1000+
78.		Blakeney's Cathay & C	lipango.					
*1			1 Vol.	• •				1902.
79.		Osborn's Queda.						
			New I	Edition	1.			1865.
80.	81.	Cruise of H. M. S. "	Bachan	te'', 1	879	1882		
			2 Vols		••		• •	1886.

## 米人ノ探檢

番	號		华			
101						出版年
101.	102. Voyage of Morriso					
		2 Vols.				•• 1839.
102.	104. 105.					
	United States' Japa	an Expedi	ition	unda	r Ch.	22
	modore Perry.		CIOII	unue	r Cor	11-
		3 Vols.	*			1856.
106.	Sailing Directioner	s for the (	Toest	of To	Don	P.
	China.			01.02	ран	CC.
		1 Vol.				1857.
107.	Senate Documents.					
		Vol. 4				. 1851-2.
108.	Ditto.					1001-2.
	27100.					
		Vol. 6				1854-55.

	雜種	
番 號	書名	出版年
121.	Description of Formosa by Geoge Psalmana- Jaar.	
	1 Vol	1704.
122, 123.	Voyage of the "Vega" by Nordenskiold.  2 Vols	1881.
124.	Memoir of Krusenstern by Madame Bernhardi.	
125.	Voyage & Servises of the "Nemesis" by Oxon. 2nd Edition	1845.
126.	Voyage into Polar Regions by Barrow.	
127.	300 Years ago (Japan Society) by Lord Redesdale.	
		1008

# 近年ノ追加 (順序不同)

者		出版年
Murdock's History of Japan.	Vol. I	1910.
Murdock's History of Japan.	Vol. II	1903.
Murdock's History of Japan.	Vol. III	
Pineiro's History of Japan. (西班牙文)		1617.
Captain Beechey's Voyage to the Pacific & Beerin	ng	
Strait in two Vols. New edition.		1831.
Di Marco Polo Viaggi in 2 Vols. folio Venezia.		1818.
Pinto's Travel in folio 3rd edition London.		1692.
Titsingh's Nipon o dai itsiran London.		1834.
Histoire de la Religion Chrétienne au Japon Par	+	
Leon Pagés. Paris		1869.
Notes sur le Japon, &c Par Chassiron, Paris.		1861.
Charlevoix in 2 Vols. Paris.		1736.
Crasset in 2 Vols. Second edition, Paris.		
1 1110.		1715.

政 炮 記 南浦文集 (原文漢文)

代種子島久時公

開州ノ 頗 大明 云 其 貌 1 3/ 形 フハ 此 ノ其 ル文字ヲ 國 ノ情ヲ ノ異ナ ノノ故ニ 儒生一人アリ名ヲ五峯ト云フモ其ノ姓 3 此 南 IJ 島小ナリト雖 來ル 愜 中 = w 名ク 解 ヤ ス = 島 在 jv 五峯即チ書 偶 知ラス船客百餘人其 ト云フ是ヨリ先キ天文癸卯 T ルヲ 7 IJ 知リテ文字 マ五峯ニ 州ヲ 知ラス 1 去 モ 3 其ノ居民庶ニシテ且 テ日 遇ヒ 是 IV コ ノ其 十十 杖ヲ以 故 7 此レ 二其 ノ理 ノ形 八里名ケテ テ沙 7 1 ۱ر 是レ 通 飲 11 ト字ト 不 秋八 ス Z Ŀ 類 西南蠻種 + w 月二十 種 書 杯飲 ニシ ツ富 7 知ラ ハ詳カナラ 子 テ テ其 1 ム譬 日 3 五 テ杯 ノ買胡 云フ我祖 ス謂 船 日丁 へい 1 語 ユ セ 中 ナリ 四二 播 ス ス 1 w 不 買胡 其 客何 時 種 世 粗 當 ハ ノ食フ = 通ナリ見ル者以 々焉ニ居 西 ホ V w 我 處 君 粒ナルモ 村ノ主宰ニ ノ國 7 臣 = 力 西 w 到 ノ義ヲ 手 ノ人 古來相傳フ島名ヲ 食 村 v 其 14 11 3/ 織部 テ奇怪 テ箸 ノ質 輙 知 w 小 浦 7 w チ 丞ナ 此 1-知 七 無窮ナ 雖 w ス ラ 1 爲 大 此 ス w 徒 1-船 毛 何 モ ス 種 其 嗜 未 其 T w 7 子 力 ノ中 IJ 欲 13 其 r 種 禮 何 如 IJ

ス

w

此

E

ナ

- 1

此

物一

久

٢

發シテ

銀山

E

摧

7

^

ク鐡壁モ穿

ツヘシ姦兄ノ人ノ國ニ

仇ヲ爲スモノ之ニ

1 修 w IJ 云 21 通 聞 以 戶 ナ = 7 如 ラ船 3 + 1 7 若 1 3 IJ カ 去 -其 筆ヲ 7 妙 雖 手 12 其 2 其 薬ヲ ノ目ヲ 1-1 同 サ 7 コ 毛 揮 聲 赤 十十三 欲 w 戶富家昌 有ル所ヲ以テ其 鳴 物ヲ 其 相 其 尾 ナリ之ヲ我祖父惠時 7 3 眇 w 應 = テ 木 中 + = 底要ハ密塞シ 携フ長サ二三尺其 1-寓シ ノ津 里一 3/ 驚 2 = 同 敏捷ナリ ニシテ南商北 スレ mj 雷 氣 津アリ津ノ名ヲ赤尾木ト云フ我 テ = シテ其 ノ轟ク 相 入 津 添 求 n 口 ノ無キ所ニ易フル 7 偶 斯 Z = 其ノ 力 1 w iv ~ 止 ノ時二當リ津二忠首座ト云フ者アリ日州ノ龍源 如 = Ŧ 五拳二遇ヒ文字ヲ以テ言語ヲ通ス五拳亦 マリ 買往 ト老父時堯 穴ョリ火ヲ放 傍二一穴アリ火ヲ通ス 3 小 ノ體 ノナリ賈買ノ長二人アリーヲ牟良叔含ト云ヒーヲ喜利志多佗孟太ト 聞ク者其 團鉛ヲ以 終 還 1 = 織 ルヤ 禪ヲ w ŀ ノミ 力 ノ耳ヲ テシ 中 改 ニ告ク時堯即チ 如 テ 通 メテ法 3/ 怪 先 28 = 此 4 掩 則 ツー 3/ = 力 チ立 21 テ外 華 由 船ヲ + 小白 ルノ路ナリ形象物 サルハ莫シー小白ヲ置 1 賴 者 11 = 繫 徒 11 ス = ラ岸 直 扁艇数十ヲシテ之ヲ挐 1-ル所ノ宗子世 非 力 中 爲リ = 2 IV ラ 畔 重 ナ 3 サ 二置十 號 + リ是ニ リハ要津 7 n 3 ナ 以 知己ノ異邦ニ テ住 親ラー ノ比 3/ テ質 於 々居 其 乘院 ノ徒 水深ク且ツ波ナ テ織 7 倫 1 w 21 發 物ヲ手 爲 ナリ法 ス 所 部 1 射者 スル ヘキ ス 云フ 丞又書 力 1 其 在 抽 ノ候中 7 = 無シ 華 殆 メニ十 w ナ 學電 3 中 思ヒ 其 其 乘 テ云ク キノ愈 1-津 常 經書 7 七日ヲ 口 棲鵠 光 身 用 通 IJ 妙

謂

時堯日 差ナ 之ヲ 何 觸 島者ノ名ク 眇 1 以 V 1 テ V 遠 人 勝 ルレ 目 1 ラ家珍 終 日 用 學 テ數 小白 = 丰 w ス フ 21 敎 7 1% 翕然 能 w 1--蘊 w フ 則 1 7 + フ 致 1 21 21 奥 w 7 蠻 チ w 蠻 -爲 ス 百 夫 サ 1 開 所 種答 詳 V. 力 步 公 所 種 ス其 1 V 以 ナ ラ u -斯 17 1 E テ 1 1 = サ 外 テ日 謂 7 IV 七 亦 = 亦 V ス ノ妙薬ノ 其 得 カー ス w 3/ 重 1 w フ = 日 ノ魄 旣 ナ 故 7 テ 置 所 ~ 譯 17 22 夫レ 丰 我 IJ H + カ 眇 1 3 = 願 擣篩 カ蠻種 時 ヲ喪 之二 是 正 ノ之ヲ テ答 時 3/ 目 7 堯 テ人名ケテ鐵炮ト 堯之ヲ見 心 1 物 21 歲重 主 重 ハン况ンヤ糜鹿 學 火ヲ放テ テ 和 27 **豊復異** 約ヲ 學フ 譯 日 看 日 合 3 7 7 九 ナ 1 1 所 心ヲ正 君若 守 テ二人ノ蠻 テ思 法 1 IJ 1. 佳節 君 Di 時 25 ルヲ要ス 12 22 アラ 堯其 ナリ 小 則 夫 シ之ヲ學 E ラ ·臣篠川 フ チ V 27 辛亥二 大凡 爲 之ヲ ス 7 其 ンヤ片目 ノ價 約ヲ w 種 苗 稀 也 v 察 1 n 世 稼 殆 天 25 1 1 當 2 謂 守 目 11 1 == 四 七 F 高 2 コヲ塞キ 知ラ テ 珍 澗 7 1 郎 7 1w 日 N 1 理 日 ナ ヲシ 庶 此 時 æ 眇 欲 ス 3/ 堯喜 7 ス IJ W 1 幾 ノ良 = テ 七 明 我 1-及 21 モ テ之ヲ學 テ 事 ス 21 七 博見ヲ 人 ノニ w 我 v 始 E 1) 辰 テ ハ遠ヲ見 = 之ヲ ノ名 難 ヲ以テ試 日 斯 1. 文 時 E 其 於 7 -亦 人 = 丰 老子 テヲ 以テ 能 始 從 在 7 7 其 1 21 言 IV 何 V n w 1 17 21 24 蘊奥ヲ ノミ 4 驚 未 = サ ス 所 1 2. 21 17 ナ 至ト 名 時 ス = 謂 不 V 1 其 丰 蠻種 便 堯朝 妙 時 日 w 1% 中 1 21 世 爲 ナ 堯日 罄 藥 動 iv 工 力 フ 7 y = 7 静 抑 = 一磨 ノ二鐵 ス 12 1 w シ 其 然 非 用 恐 7 テ 知 小 小 1 モ 以 ラ 正 知 4 3/ 團 7 IV E IV Ŋ 炮 鉛 見 約 = == 心 テ E ラ ス ラ テンラ 告 亦 w 自 願 ス = 7 何 1 IV 守 7 故 我 其 w 求 7 ラ 先 17 ケ 明 無 畏 人 3

又三郎ナルモノアリ商客ノ徒ナリ我島ニ

寓止

ス

N

7

ト一二年ニシテ鐵炮ヲ學ヒ

殆

2

熟

ス歸旋

於

時

卷テ之ヲ藏 堯以爲ラ 胡復我島熊野 法 己レノ韞匱ヲ私シシテ之ヲ藏センヤ即チ津田監物ヲ遣シ特ニ其ノ一ヲ杉坊 某公ナ ニ之ヲ製セ ノ心ニ之ヲ解シテ曰ク昔者徐君季札 力家臣 ノトヲ F 火 セ マス嚮 製造ス 7 IJ 遐 天 ス 道 ント欲ス其ノ 編 而 ノア 邇 IV 浦 小 w = ヲ知ル 授 = 時堯ノ意ハ 7 ヲ况 = リチ ナ 殆ント 在ル 來 7 知ラシ · リ N ル ンヤ 里 於是歲餘ニシテ數十ノ鐵炮ヲ新製ス然ル後其 所 浦ノ名熊野ナルハ亦小廬山小天竺ノ比ヒナリ買胡ノ中二幸二一人ノ モ 雖 7 庶キモノ是二於テ百發百中シテ一失無キニ至ル此ノ時二於テ紀州根來寺 形制頗 ナ ム時堯把 トモ 求 遠本 其ノ臺ト其ノ飾 視 IJ メテ得 即チ金兵衞尉清定ヲシテ其 テ之二效フ 何ツ 3/ ル之ニ ŀ 元ノ餘 敢テー スン セ ス ハ豊心 似タリト雖ト 劒ヲ好ム徐君口敢テ言 3/ 百 リ鐡匠數人ヲシテ其 物ヲ愛マンヤ且ツ復我ハボメスシテ自ラ得テ喜テ寢ネス テ我鐵炮ヲ 發百 トニアラスシテ之ヲ行軍ノ時ニ = 中 快 ス カラン ル者亦其 モ其 求 3 ノ底 ノ底 ヤ 2 我 1 ノ形象ヲ熟視セシメ月ニ鍛へ季ニ ノ幾多ナル ノ塞ク所ヲ學ハシム ノ好 ノ之ヲ塞ク所以 1 欲 サ ス ルモ季札心ニヒニ之ヲ 時堯人ノ之ヲ求ムルノ深キヲ Z ヘノ臺ノ 所亦人 ヲ知ラ 用フヘキカニ在 形 制 贈リ且 ヲ 好ム所ナリ我豊敢 知ラス ス 1 其 漸ク 其 ノ後 ノ飾 ツ之ヲシテ 時 其 和 月 知 リキ 泉界 鍵 翌年 7 綸 經 終二寶 錬リ新 テ其 ·蠻種買 妙 アリ 感シ 如 獨 + 杉坊

其

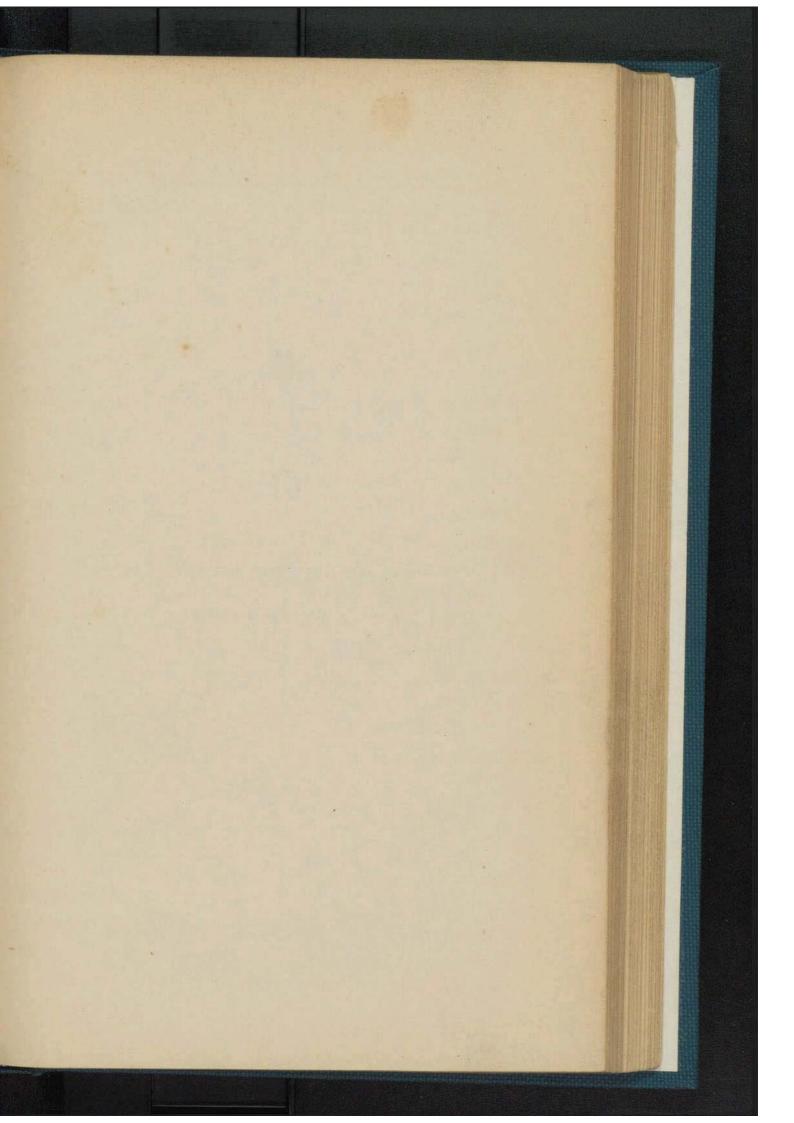
皆名ヲ 纜ヲ 關 郎三 我朝 去 風 + F 傚墓シテ多ク之ヲ學フモ 7 知 炮 ス 海 東 ルアリ二貢船 ス 我 是ニ於テ畿內以西 ノ敷百 遂 解 7 リテ我島ニ名クルモ 時堯之ヲ 亦然リ然レ 呼ハスシテ鐵炮又ト云フ然ル後畿內 掀シ怒濤雪ヲ捲 メ五畿七道 行ハルルヤ蓋六十 ナ 飄蕩 南遊 w 毛 人船ヲ我小 求 ノア ノ志ヲ遂 シテ東海道伊豆州ニ達ス州人其 ハ漸クニシテ大明 メ之ヲ學ヒ リ手ニ鐵炮ラ ŀ = 徧 モ我賞テ之ヲ故老ニ聞 ケ キ坤軸亦折 島 ノ富豪ノ子弟進ンテ商客トナルモノ殆ント千人機師篙師 丰 飽 二機 有餘年ナリ鶴髪ノ翁モ ノ今以テ其 ヲ然ラハ ノアリ兹ョリ以降關東八州率土ノ濱傳テ之ヲ習ハサ ク迄海貨蠻珍ヲ載 \_ タヒ ス既 携 國寧坡 則 發 v ニシテ天 ~ 旣一 2 ノ識ヲ符 チ 3/ 鐵炮 テ扶桑六十州ヲ聳動 トス吁時 發 府ニ ス 7 ノ近邦皆傳テ之ヲ習フ畿內關 ノ我種子島 時 日 v 達シ三貢 スト為ス古 ノ貨ヲ掠メ取リ商客亦其ノ所ヲ失フ船中ニ我僕臣 セテ我朝 猶之ヲ ナル 7 ク天文壬寅癸卯 21 待テ纜 其 カナ命 ノ鵠 明 船 = = 權與 記 歸 7 == 中ラ 乘 解キ ラン 日 ナルカナー貢船 ス 3 12 ルヲ得 ス 12 ク光徳善ア サル 撓ヲ齊ウシテ望洋向 w E ŀ ノ交新貢ノ三大船將 w 21 ヲ ス ノアリ 大洋 明ナ 且. Ŧ スシテ我 1 ツ リ告者 復鐵匠 リテ ナシ 是 ノ中黒風忽チ 四 ノ得テ之ヲ學フノミ い檣傾 V ルモ 小島 世 州 知 ノ州ラ = \_ 7 IV 人見テンラ 種 昭 ノナシ今夫レ + 3/ · 楫摧· 二大明 囘 若 テンラ 3/ 子 H 1 嚮 起 操 w ス 1% 翌 世々 ケ鳥 不幸 牛 IJ w w 能 ノ難 奇 西 年 7 國 東ヲ 無 12 再 1 上松下五 ナラ 此 化 ニ窮ノ義 ノ道 遊 サ 神 種 3 E 知ラ ノ物 其 窺 3 テ 1 w テ ス 狂 如 1

後世ノ過ナリト因ラ之ヲ書ス

索

引

数字ハ西曆年號ヲ示ス
イロハ又ハ五十晋ノ代リニ ABC ヲ用フ



司令官	1612		
バンタン	1602	A	
1	619	アルプケルケ	1510
バタビヤ	1619	アンボイナ	1511
Breskens (de Vries ノ二番艦)	1643	アンジョー (Paulo)	1547
Byleveld (Montanus 中ノ科學	者) 1649	Adams (William)	1600
Busch (Sea of Okotsk 初航者	<b>等</b> )1696		1620
Behling (Beeling トモ) 露ノ		安平 (アンビン)	1624
大探檢家	1728	安宅丸	1635
1	729		1682
Benyowsky(俗稱ハンベンゴロ	-) 1771	嵐山甫庵	1661
Burg (蘭船)	1772	Atlasoff (露人)	1697
Billing (英人ニシテ露ノ探檢	者)1785	新井白石	1708
Broughton (英艦長)	1796	Tarrier State of the State of t	1713, 1715
Blossom (英艦)	1827	青木昆陽	1720
Beechey (英艦長)	1827		1739, 1744
Belcher (Sir Edward)	1845	アレウシヤン	1767
ビツドル (米司令官)	1846	Awos (露船)	1807
Barracouta (英艦)	1854	阿部伊勢守 (老中)	1843
1855,	1856		1855
蟠龍艦 (英國寄贈エンペラー	虎)1858	Alcemene (佛艦)	1844
		旭丸(俗=厄介丸)	1856
C			
コルチス(メキシコ征服ノ西	終) 1520	В	
コエルホ (Coelho)	1570	Burney	
	1587	Voyage to South So	ea 冊尾附錄
千々石清左衞門	1582		籍目錄中=在リ
コンサール (ペール)	1594	バルボア	1513
チャリチー (蘭船蘭名リーフ			ツク) 繭ノ
Charma H			

The state of the s			
Elasms (Liefdi 號舊名)	1600	Cocks (Richard)	1613
Eliza (米船)	1797	Constanzo (Padre Camilo de)	
Eclipse (米船)	1807	カルハイルロ (P. Diego	-
エワレツト (米官)	1846	Carvailho	) 1617
Elgin (Lord 英使節)	1858	Compania 島 (得撫蘭名)	1643
榎本釜次郎	1862	Chmiteffskoy	1743
F		Cook (Captain 英艦長)	1779
		1768, 17	73
深江浦 (長崎港舊名)	1565	コープ (蘭艦長)	1844
福田(長崎港外)	1565	Cecille (佛海將)	1846
フロイス (Froez)	1570	Cleopatra (佛艦)	1846
Fort Zeeland (臺灣)	1624	Columbus (米艦)	1848
踏繪	1629, 1856	Coffin (小笠原島=米人命名)	1853
Fonte (de Fonte 西ノ海將	) 1640	Curtius (出島甲比丹)	1855
Feith (出島ノ甲比丹)	1776, 1781	朝陽艦(エド號)	1858
Frederick (英船 East Indi	aman) 1803	D	
Furious (英艦)	1858	D	
福澤諭吉		大泥國	1599
福地源一郎		出島	1634
G		163	36
ď		Dejneff (露人白令海峽發見者)	1648
ゴア (臥亞)	1510	Davidoff (露船 Awos ノ船長)	1807
Galvao (Antonio)	1542	Doeff (出島ノ甲比丹)	1809
五峯 (王直ノ號)	1553	Diana (露艦)	1811
ゴホー (ジャン)	1592	Diana (他ノ露艦)	1854
蒲生貞秀 (氏鄕家來)	1588	Douglas (Sir Archibald)	1873
後藤梨春	1765		
五郎次 (漂流者一覽表)	1807	E	
Golownin (露艦長)	1811	エルマーク (露人)	1581

鵬翔丸(英ヨリ購入舊名カタ	タリ	Gordon (英艦長)	1818
ナテレシ	ヤ) 1858	Glyn (米艦長)	1849
鳳凰丸 (本邦製後ノ豊島形)	1858	グロート (佛使)	1858
I		Н	
家康	1542	秀吉	1536
伊東義賢 (羅馬遺使)	1582	日出港(豐後)	1549
岩上傳右衞門(氏鄉家來)	1584	平戶	1550
印度總督	1591	原田孫七郎	1592
家康ノ船太平洋ヲ横ギル	1610	ハウトマン (蘭人)	1595
今泉令史 (支倉一行)	1613	ヘロニモ	1599
家康薨	1616		1602
伊能忠敬	1745	支倉常長 (政宗ノ羅馬遺使)	1613
1800,	1821	澎湖島	1622
イジョー (露人)	1785	原主水 (羅馬遺使)	1623
石川將監忠房	1798	濱田彌兵衞	1628
井戶石見守	1853	ハバロフ(陸上ヨリ黑龍江探	檢者)1644
	1854	平澤元愷	1774
伊澤美作守	1854		1778
井上信濃守(下田奉行)	1856	堀田仁助	1799
	1858	羽太正養	1802
岩瀨肥後守	1857	Hall (英艦長)	1816
	1858	ヒツテント (米艦長)	1846
井伊直弼 (大老)	1858	林大學頭	1853
池田筑後守(遺歐使節)	1863	堀緞部	1853
J		堀田正篤 (老中)	1855
3			1858
ジャンゴホー	1592	Harris (Townsend 米領事)	1856
Jerome de Angelis	1620		1858

近藤守重	1798	ジャガタラ	1619
Krusenstern (露艦長)	1804	Juno (露艦)	1806
川路聖謨	1853	壽三郎(漂流者一覽表) 1807	, 1831
1854, 1	858		
看光丸 (舊名スームビング)	1855	K	
君澤形	1856	カテキ (貨狄)	1600
咸臨丸 (ヤツバン號)	1857	東浦寨	1601
1	858	Kelung (基隆)	1626
木村攝津守	1858	海外渡航	1635
勝安房守	1858	寬永鎖國令	1639
小出大和守 (遺露使節)	1866	Kwast (蘭艦長)	1639
L		Kastrikom (de Vries 直率蘭艦)	1643
		樺太	1643
レガスピ (西將)	1564	1684, 1785, 1786, 1792, 180	1,
呂宗	1577	1806, 1808, 1853, 187	5
リーフデ (蘭船)	1600	Kaspar (Montanus 中ノ醫官)	
呂宗遠征ノ中止	1638	河村安治 (瑞軒)	1670
Lowascheff	1767	快風丸(水戸ノ官船石狩河口	
la Perouse (佛ノ大航海者)	1787	=至ル)	1688
Laxmann (Adam 露艦長)	1792	Kempfer	1690
Lutke (露船長)	1828	<b></b>	1697
Ladoga (米捕鯨船)	1848	1699, 1707, 171	6
M		Kosierswski	1713
IVI		Krenitzin	1767
Murdock 册尾附錄第八書籍		桂川甫周	1774
History of Japan	=在リ	179	3
Madagascar	1506	King (英艦長)	1779
マラツカ	1511	幸太夫 (露國へ漂民)	1782
マゼラン	1519	Kodai (上記下同人)	1792

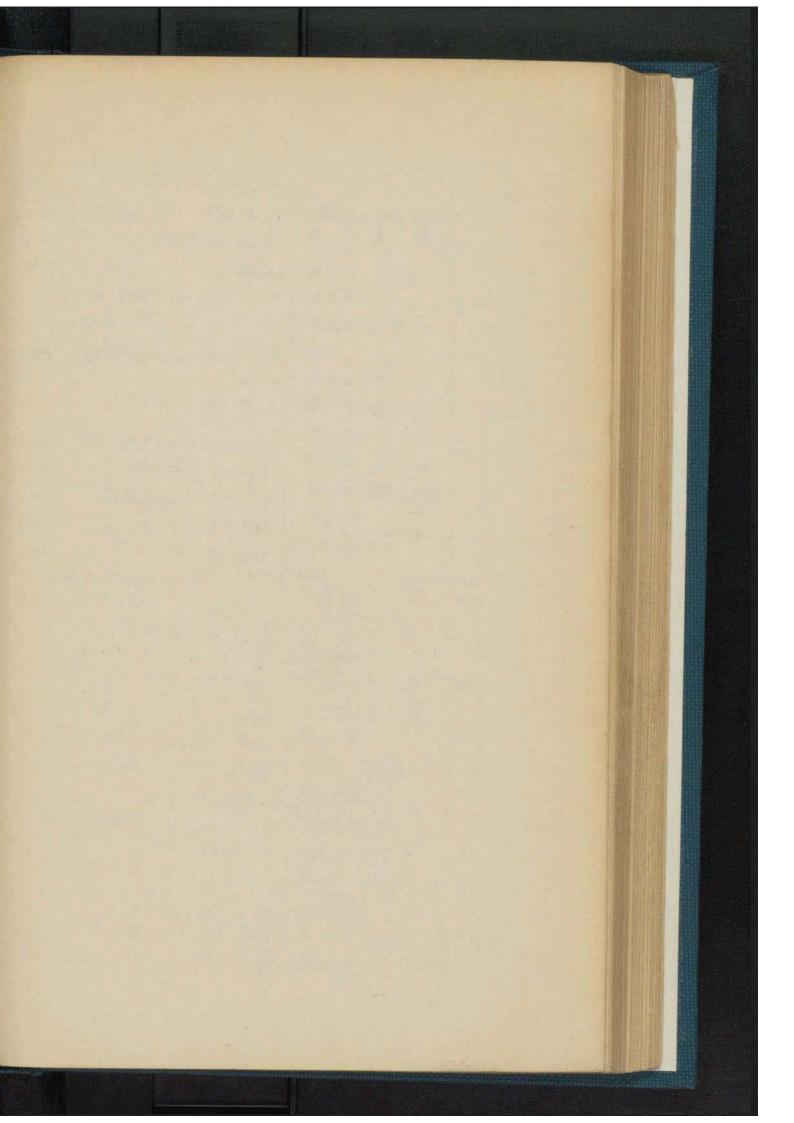
1054	1050	Motta (Antonio da)	1542
水野筑後守(長崎奉行)	1854	松永久秀	1560
	The Control of the Co	マニラ	1571
向山隼人正(駐佛公使)	1867	1590, 1606, 179	
N		町野友重(氏鄕家來)	1590
		松前及松前侯	1660
信長	1534	1604, 1778, 1799, 1807, 182	
南蠻寺	1569	松本忠作(支倉一行)	1613
	1589	政宗(政宗ノ船出帆ス)	1613
中浦某(羅馬遺使)	1582	モロー(葡人或云長崎佳母呂氏	
長崎奉行	1593		1630
1633,	1700	向井將監	1637
二十六聖磔刑	1597	盆田四郎	
西川如見	1695	Montanus	1649
	1719	Morosko (Anadir ョリ南下シ初) テ勘察加ニ至リシ人)	1696
中根玄圭	1720	前野良澤	1771
野呂元丈	1720	最上德內	1786
中川潤庵	1771	1791, 17	98
中村小一郎	1801	松平信明	1798
Nadesida (露艦)	1804	間宮林藏	1808
松平圖書頭康英	1808	松田傳十郎	1808
中濱萬次郎(漂流者一覽表)	1841	水野越前守	1834
永井岩之丞 (後玄蕃尙志)	1854	18	43
中村出羽守 (下田奉行)	1856	水戶齊昭 (烈公)	1834
新見豐前守 (シンミ)	1858	18	54
生麥事件	1862	Morrison (米船)	1837
		Mercator (米船)	1845
0		Mariner (英船)	1849
大內氏	1523	Matheson (英艦長)	1849
王直	1553	村垣與三郎	1853
		THE RESERVE AND ADDRESS OF THE PARTY OF THE	

Pellow (Capt. Fleetwood 英	1808	大村侯	1562
Phaeton (英艦)	1808	Organtino(ウルガン,オルガン)	1570
パレンバルグ (蘭艦)	1844	大友氏	1582
Preble (米艦)	1849	小笠原島	1593
ペルリ (彼理米将)	1853	1612, 1668, 1675, 1733, 182	7,
	1854	1828, 185	3
プーチャチン (露使)	1853	和蘭及蘭王	1609
	1854	1612, 1700, 1844, 185	5
Pohattan (米艦)	1858	蘭人御條目 (Rヲ見ヨ)	
0		大久保石見守長安	1613
Q		Ongelukkig 島 (英 Unlucky)	1643
R		大槻玄澤	1783
K		大石逸平	1786
レガスピ	1564	小栗(豐後守後=上野介)	1858
	1671	Osborn (Capt. Sherard 英)	1858
Rodorigo (Don Rodrigo		D	
de Vebero Velaso	eo) 1609	P	
蘭人御條目	1638	Peixotto (Antonio)	1542
	1659	Pinto (Fernando Mendez)	1542
Return (英船)	1673	Psalmanazaar	1549
林子平	1775	ペールゴンサール	1594
1785, 1787,	1792	バタニ	1602
Resanoff (霧使)	1804	ピーテルドット (繭ノ印度總督)	
Rangsdolf (露ノ醫官)	1804	Pessoa	1608
Raffles (Sir Stanford)	1813	Ponghow	1622
ロツデール (ジョン米艦長)	1855	伯徳帝(露ノ)	1711
C		1725	
S		Potonchew	1777
マラオ (葡人)	1511		1797

司馬江漢	1788	Sousa (Marin Alphonso de)	1542
政德丸	1799	朱印船	1592
辰悅丸	1800	1601, 1	634
Schowostoff (露船Junoノ船長)	1806	San Philip (西船)	1596
シーボルト	1823	白絲	1609
1826, 1829, 1859, 1861, 186	2	スペツクス (ジャツク)	1604
Savory (Nathaniel)	1830	1	612
澁川六藏	1844	San Francisco (西船)	1609
Samarang (英艦)	1845	ソテロ	1612
Sabine (英艦)	1846	1	613
Stirling (英將)	1854	ソマトヨール (葡海將)	1611
スームビング(蘭ヨリ購入		Saris (Capt. John 英)	1613
後ノ看光丸)	1855	島原	1639
昌平丸 (薩藩製造)	1855		638
新見豐前守	1858	Staten Id. (擇捉島/蘭名)	1643
186	60	Schaep (Hendrick Cornelys,	
柴田日向守 (遺英佛使節)	1865	de Vriesノ二番艦艦長	是) 1643
		Sparrow Hawk (繭船)	1653
T		末次平藏	1670
鐵炮記	1543	Sidotti (伊人Abbe Sidotti)	1708
種子島	1543	下田	1720
種子島時堯	1543	杉田玄白	1733
トレー師	1552	1	.771
157	70	Spanberg (露船)	1738
竹內知勝 (氏鄉家來)		1	741
	1586		
高山右近	1586 1587	Schelting (露船)	
高山右近		Schelting (露船)	
	1587	Schelting (露船)	1738

and the same of the same	1854	1 600	1853
戶田伊豆守(浦賀奉行		桃庵	1610
後=遣歐使節	1853	Tasman (駒ノ大探檢家)	1629
	1861	天地丸	1630
竹內下野守 (函館奉行)	1854	天下丸	1635
德川民部大輔	1867	鄭芝龍(及鄭成功)	1646
Tracy (英海軍大佐)	1868	1649, 1658	, 1661
U		Tschirikoff'	1728
		竹內德兵衞	1744
氏鄉 (蒲生)	1548	Thunberg	1775
浦賀	1720	Titsingh	1780
鵜殿民部少輔	1854	津太夫 (仙臺舟子)	1793
37		高橋至時	1796
V		富山保高	1799
Vasco da Gama	1502	The state of	1801
ウイレラ (Vilela)	1570	高橋一貫	1799
ウアリヤー= (Valegnani)	1570		1802
ウイスカイノー	1611	高田屋嘉平	1800
Van Diemen	1629	1812,	1813
Vries (de)	1643	高橋治太夫	1801
Victorious (英艦)	1846	戶川安論	1802
Vincennes (米艦)	1846	Torey (英艦長)	1803
	1855	遠山景晋	1805
ウエルニー (俳人)	1864	寶島 (薩摩)	1824
	1875	高橋作左衞門	1825
W			1829
		高野長英	1839
和寇	1580		1850
ウエルデル	1634	筒井政憲	1853

山田長政		1619	Walton (露入)	1738
	1621, 1626,	1633	和田平太夫	1786
米澤德兵衞		1633	Waardenaar	1813
安井算哲		1684	渡邊崋山	1839
吉宗(八代將軍)		1716		
		1751	X	
山脇東洋		1754	Xavier (Francois ザビエル)	1549
吉田秀長		1796		
山路德風		1796	Y	
蝦夷		1718	横瀬浦(佐世保軍港内ノ)	1562
	1798, 1799,	1804,	山科勝成 (氏鄕家來)	1580
	1821, 1853,	1854	横田玄佐 (大友宗麟家來)	1582
	Z		耶楊子(ヤンヨス)	1610
			耶蘇禁教	1611
Zeimotto (Fra	ancisco)	1542	1613, 1614, 1634, 16	635



n は を 齌 12 何 的 力。 遊 國 L 明 得 27 な 裨 出 學 3 + 治 土 1 是 年 L 觀 彼 探 四 益 人 等 察 檢 前 す 屢 n + L 5 洋 固 誌 著 3 1 4 年 所 其 古 敎 A 1 航 者 が 5 海 書 學 0 著 小 0 我 を 單 記 英 傳 者 か 舊 2 5 为言 21 は 京 儲 大 播 12 Su. 新 英 7 海 愛 72 書 見 駐 5 得 博 0 帝 3 00 國 好 聞 在 春 12 物 形 せ 館 奇 錄 夏 か 跡 12 0 向 0 風 6 相 1 如 前 情 土 n n 圖 何 N と 書 を 志 L 後 T 3 命 充 及 室 詳 行 L 這 公 C 般 21 为 N な CK 3 暇 L 其 歸 近 探 12 を h 0 朝 代 5 す 所 利 世 0 L 3 0 から 他 用 爲 諸 L 史 5 21 探 12 2 8 種 L 籍 あ 檢 T 幾 航 17 0 地 あ 5 歐 研 5 L 行 あ 許 誌 な 2 6 究 米 \$ 0 L 6 が 通 ず 資 人 閱 な 蓋 九 料 力; 覽 而 商 < 8 貿 L を H L を 當 其 本 1 縱 易 銳 時 著 女 4 時 5 0 意 12 關 著 予 0 集 蒐 者 書 者 亦 經 集 L は 12 2 路 せ 其 す 0 倫 0 著 書 敦 如 目 6 3

刊 在 1 英 1 中 小 行 數 餘 -同 0 業 好 績 0 士 を 17 要 約 予 頒 布 L せ 2 6 n 册 \$3 \$3 5 な 卽 L ち 名 づ 今 增 H 訂 T 洋 L 人 1 新 H 刊 本 せ 探 6 檢 年 3 表 1 2 所 0 V 年. N 之 表 0 を 创 私 0 今

此

0

新

修

0

年

表

幸

17

岩

波

氏

0

好

意

21

依

3

2

出

版

せ

5

る

1

17

及

Ch

子

欣

喜

0

情

措

版 爾 本 來 2 --な す。 數 车 著 手 者 亦 退 -閑 本 0 0 後 惠 更 與 21 を 東 得 西 2 新 麥 古 考 0 0 資 21 供 せ L 5 2 頗 3 多 力 5

3 1 證 弘、 L 詣 多 學 を 若 < 事 愈 0 界 待 L 史 項 4 2 17 0 夫 學 は 深 謂 異 T n 家 初 遠 彩 年 2 闡 讀 版 を ~ 8 明 表 史 本 加 し。 放 世 中 者 17 ~ 0 6 探 0 數 舊 21 n 檢 座 倍 作 足 L 航 右 L 0 3 所 海 21 且 年 海 参 等 備 0 表 將 4 0 ~ 附 圣 21 存 考 錄 6 增 L す 察 2 n 益 T ~ 27 h 索 修 愛 4 3 至 51 訂 史 す。 な 0 す 2 家 50 T を 3 史 됴 た は 5 添 書 然 3 著 12 2 1 を 著 6 者 慶 内 歲 博 者 ば 0 す 容 あ 搜 亦 本 ~ 則 外 5 L 能 5 領 色 形 是 T 1 之 12 12 全 21 日 其 21 屬 1 あ 於 本 0 す 由 6 -探 面 5 3 す 新 記 檢 目 1 所 g. L 載 史 を 此 0 7 補 17 發 0 海 公 註 關 揮 著 事 刊 せ す 書 0 將 6 る た 永 智 12 礼 造

感 何 0 興 ぞ 便 子 歡 極 甚 平 8 だ CK 素 T 迎 大 自 深 1 な 5 也 The 5 史 多 3 7 傳 0 を 爲 0 あ 得 世 要 50 る h 項 \$º 27 を 於 玆 年 T 況 21 表 E 子 h 0 や。 à 0 體 日 年 裁 本 表 12 0 癖 編 海 を す 表 以 3 諸 7 を 邦 L 好 21 T み 對 此 私 す 0 か る 探 12 史 檢 以 實 年 7 12 表 簡 就 0 捷 4 刊 21 T 行 L は 17 T 予 接 檢 亦 す 索

く能はざるものあり、乃ち敢て憚らず蕪雜の僻を列ねて跋文となす。

即位大典を舉げさせたまひし昭和三年の十二月三十一日京都にしるす

新村

出

-		-	-						-				
五七	五三	五二	一四七	八五	八二	七〇	三九	= 1	= -	一八	-	頁	
三一四行	九行	十行	初行	安惠永六年	底行	三行	底ョリ九行	一六二〇年	一五八三年	底ヨリ三行	一五四三年	行又八年	Œ
Geoge Psalmanajaar	Captaain	Travaels	ヲ以テボタニー	・プーチャ・ン	感謝セ	Thunderg	1940	括弧ノ尾端此ノ年ニ及ブラ削	有村。	兩。	名り。	誤	誤
George Psalmanazaar	Captain	Travels	カ	プーチャチ・ン	感謝セリ	Thunberg	1640		有馬。	西。國	名うつ	Æ	

昭和四年三月十八日第一刷發行 昭 和 發 四年三月四日印 有所權版 行 所 南神保町十六番地東京市神田區 刷 印 颈 縦 悶 行 者 雹 東京市鄉田區銀町三丁員十七番地 東京市神出區府神保町十六器地 **弹**人日本探檢年表 岩 白 栃 定價 井 內 振蓉東京(33) 波 沉 赫 曾 圓 太 次 郎 雄 郎 〇九八 副 仲 壯 爽 精

(片山製本)

I+5U67

